

台灣樟腦局事業第一年報

14.21

.122

14.21-122



1200701608059



始

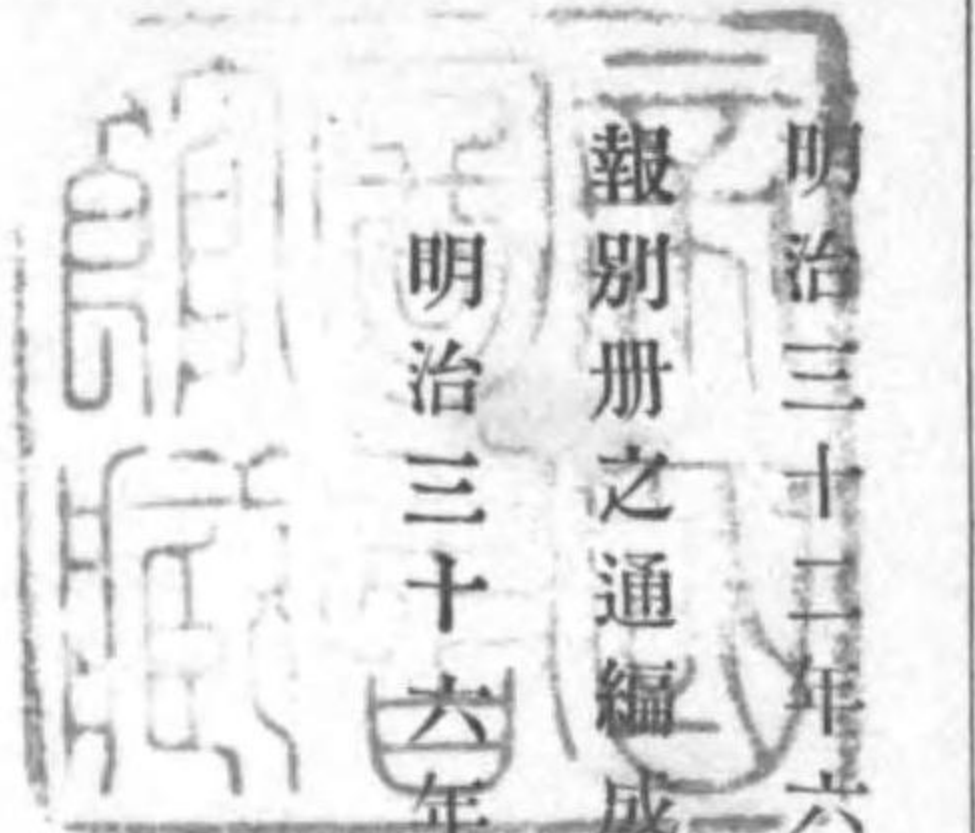


明治三十三年六月ヨリ同三十三年三月ニ至ル臺灣樟腦局事業第一年
報別冊之通編成候ニ付及進達候也

明治三十六年十月三十日

臺灣總督府專賣局長 祝 辰 巳

臺灣總督男爵兒玉源太郎殿



寄附本



臺灣樟腦局事業第一一年報目次

第一章	總說	一
第一節	專賣制度ノ創立	八
第二節	專賣機關ノ創設	一〇
第二章	特許	二〇
第一節	製腦特許方法	二二
第二節	製腦特許數	二六
第三章	取締	二六
第一節	樟腦及樟腦油ニ關スル取締	二六
第四章	製造	二二
第一節	製腦機關ノ設備	二二
第二節	作業及生産	二六
第三節	文山堡試製所成績	二七
第四節	上坪試製所成績	二八
第五節	叭哩沙試製所成績	二九

第六節	粗製樟腦及樟腦油試製高	四三
第五章	收 納	
第一節	粗製樟腦及樟腦油買收	四四
第二節	荷造運搬	五〇
第六章	賣 渡	
第一節	樟腦賣渡	五五
第二節	樟腦油賣渡	六四
第七章	計 算	
第一節	支 出	六九
第二節	收 入	七八
第三節	樟腦專賣事業ノ損益	八〇
第八章	庶 務	
第一節	職員任免異動	八一
第二節	文書取扱件數	八七
第三節	公文諸法規ノ制定改廢	八七

臺灣樟腦局事業第一年報

第一章 總 說

第二節 專賣制度ノ創立

樟腦カ一ノ商品トシテ世人ノ注意ヲ惹クニ至リタルハ近來ノコトニ屬ス其藥用又ハ防蟲用トシテノミ知ラレタル間ハ其需用モ亦現今ノ如ク多大ナラサリシモセルロイド製造ニ缺クヘカヲサル原料トシテ工業的ニ使用セララルルニ至リテヨリ其需用ハ頓ニ増加セリ蓋シ現今歐米ニ輸出セララルル樟腦ノ七八分ハ之カ爲ニ消費セララルルモノトスセルロイドハ輒近千八百六十九年ノ發明ニ係ルト雖其用途ハ極メテ廣ク我邦ニ於テ人造護謨人造象牙等ト稱スルモノハ皆セルロイドナラサルハナシ其製作ニハ如何ナル色澤如何ナル形體ヲモ有セシムルヲ得ヘク且ツ極メテ細工ヲ施シ易キカ故ニ將來益々其用途ヲ擴張スルニ至ルヘキハ疑ナシ樟腦ハ一度此有用ナル用途ニ供セラレテヨリ漸次其價格ヲ高メ隨テ產額ヲ増加シタリ而シテ其產地タル東洋ニ限局セラレ世界ニ於テ他ニ之ヲ求ムヘキ所ナシ就中日本内地及臺灣島ヲ以テ最モ豊富ナル產地トス

我邦ニ於ケル樟腦製造ハ久シキ以前ヨリ所々ニ行ハレタリト雖其著シク產額ヲ増スニ至レルハ維新以降ノ事ニ屬シ四國九州等到ル所製造ヲ開始シ爭フテ數百年ニ達シタル老樹ヲ伐採スルニ至レリ當時外國商人カ深ク產地ニ入りテ其先買權ヲ得ンコトヲ勉メタルカ如キ未

タ世人ノ記憶ヲ去ラサル所ナラン然ルニ當時ノ製腦ニ從事シタル者ハ樟腦ハ如何ナル用途ニ使用セラルルモノナルヤヲモ辨知セス唯其市價ノ上進ニ連レテ利益多キカ爲メ争フテ之ヲ製造スルニ過キサリシナリ獨リ製腦者ノミナラス政府當局者モ亦深ク研究ヲ積マス樟林保護ノ必要アルヲ覺ルノ氣運ニ至ラス加之樟腦市價ノ騰貴ハ如何ナル原因ナリシヤモ看過シテ問ハサリシナリ斯ノ如クニシテ日本内地ニ於ケル民有樟樹ハ漸次ニ伐採シ盡サレ近來大ニ其産額ヲ減少セリ

臺灣ニ於テハ西曆千八百六十年頃ヨリ樟腦ヲ製造スルモノアリシモ其産額ハ極メテ微々タリシモノノ如シ當時臺灣道臺陳某ハ樟腦ヲ硝石硫黃等ト共ニ私ニ賣買スルコトヲ禁止シ之ヲ官ノ專賣ト爲シタリ然ルニ英國領事ノ抗議ヲ受ケ千八百六十九年專賣制度ヲ廢止シ外國人モ亦内地ニ入り自由ニ樟腦ヲ買取り之ヲ開港場ニ搬出スルノ權利ヲ得タリ千八百六十九年ノ樟腦取締規則劉銘傳カ臺灣巡撫トナルニ及ヒ再ヒ專賣法ヲ行ヒ千八百八十五年光緒十一年樟腦事務ヲ管掌スルカ爲大崙坎ニ一局ヲ設ケ山地ニ於テ製造シタル樟腦ヲ同局ニ集メ政府ハ更ニ獨商伯爵ブツトレルニ之カ一手販賣ヲ特許シタリ續テ林朝棟及蔡南生ブツトレルニ代ハリ樟腦ノ拂下ヲ請願シ劉巡撫ハ之ヲ容レ樟腦製造ハ漸次盛大トナリ各地ノ産出漸ク多キヲ加ヘタリ然ルニ千八百九十年光緒十六年一英商カ彰化縣ニ於テ私ニ樟腦ヲ買入レシヲ巡察員ノ爲ニ發見セラルルコト再度ニ及ヒ十萬餘斤ノ樟腦ハ政府ノ沒收スル所トナリシヨリ該英商ハ忿懣ニ耐ヘス總理衙門ニ其不法ヲ控告シタル結果劉巡撫ハ戶部ノ彈劾ヲ受ケ竟ニ同年十一月專賣ヲ廢シ單ニ製腦ノ灶鍋ニ對シ一定ノ課稅ヲ爲スコトニ改メタリ然ル

ニ官業ヲ全廢シ内山駐屯ノ兵營ヲ撤退シタルヨリ生蕃ハ所々ニ出沒跳梁シ或ハ腦丁ヲ殺害シ腦寮ヲ焚燒スル等樟腦製造業ハ甚シキ障害ヲ被リ又專賣當時ノ盛況ヲ見ル能ハス降テ清佛戰爭終結ヲ告クルニ及テ清國政府ハ再ヒ政府ノ特賣タラシムル制度ヲ執リタリ然レトモ曩ニ劉巡撫カ施設シタリシカ如キ效果ヲ收ムルコト能ハス千八百九十一年再ヒ特賣ノ制ヲ廢シ課稅ヲ以テ之ニ代ヘタリ以上ノ如ク臺灣ニ於ケル樟腦製造ハ時ニ其制度ニ變遷アリ其産額ノ如キモ精確ナル記録ノ徵スヘキモノナシト雖之ヲ日本ノ産額ニ比スレハ負カニ下位ニ居リシモノタルヤ明ナリ而シテ臺灣ヨリ産出スル樟腦ハ悉ク香港市場ニ集マリ更ニ各國ニ搬出セラルルコト尙内地樟腦ノ神戸ニ於ケルカ如クナリシ故ニ臺灣ノ腦價ハ一ニ香港相場ノ左右スル所タリシナリ

以上ノ如ク樟腦ハ主トシテ日本内地及臺灣ヨリ産出スルノ外現今ニ至ル迄他國ニ於テ産出スルコトナキ商品ニシテ今日ニ在テハ我邦ノ自然的獨占ニ屬セリ而シテ其用途タル假令日需ノ必要品ニアラスト雖廣ク歐米各國ニ涉リ之ヲ從來ノ經歷ニ徵スルニ年輸出額五六百萬斤ニシテセルロイド製造會社ハ悉ク其原料ヲ我邦ニ仰カサルヲ得サルノ状態ニ在リ斯ノ如キ自然的獨占ノ商品ニシテ其製造販賣ヲ自由ニ放任シ置クトキハ投機者ノ乘スル所トナリ或ハ買占ト爲リ或ハ賣崩ト爲リ一昂一低其左右スル所トナルハ明瞭ナリ何トナレハ其需用ハ世界各地ニ涉ルニ拘ラス其產地ハ一部分ニ限ラレ他ノ普通商品ノ如ク急速ニ多額ヲ産出スル能ハス其價額モ亦投機トシテ之ヲ左右スルニ容易ナル金額タルヲ以テナリ從來獨リ神戶香港ニ於ケルノミナラス歐米ノ市場ニ於テモ亦屢々投機ノ目的ニ供セラレ市價ハ常ニ此

等投機者ノ左右スル所トナリシハ宜ナリト云フヘシ

此ノ如ク樟腦ノ市價ハ常ニ投機者ノ爲ニ左右セラレ當業者ハ單ニ目前ノ市價如何ニノミ注目スルカ故ニ時ニ生産過剰トナリ價格ノ暴落ヲ來タスヲ免カレヌ是ニ於テ乎製造者ハ唯其産出ヲ増シテ僅ニ利セシコトヲ勉メ其弊ヤ粗製濫出益々其價格ヲ失墜スルニ至リシコトハ從來ノ實歴ニ徴シ顯著ナル事實ニシテ之ヲ一國トシテハ天然ノ國産ヲ暴殄シ之ヲ個人トシテハ少數投機者ノ爲ニ利益ヲ壟斷セラレ健全ナル産業ノ發達ヲ阻害セラレタルモノトス思フニ樟腦ノ如キ自然的獨占ノ性質ヲ有スル商品ニ在テハ之ヲ政府ノ專賣ト爲ストキハ外其需要ニ應シテ適當ナル數量ヲ供給シ以テ相當ノ價格ヲ維持シ内ハ濫伐粗製ヲ防キテ以テ永遠ニ其利益ヲ收ムルヲ得ヘク其專賣タルヤ殆ト完全ナル專賣ヲ爲シ商略等ヲ加味スルノ必要ナクシテ其目的ヲ達スルヲ得ヘキナリ若シ夫レ之レカ製造及賣買ヲ自由ニ放任センカ産業ノ發達價格ノ維持兩ナカラ之ヲ失ヒ遂ニ事實上有スル所ノ天與ノ專賣權ヲモ全ク無効ニ了ハラシムルハ從來ノ歴史ニ徴シテ明白ナル所ナリトス

清國政府ノ時代ニ於テハ表面上外國人ハ通過券ヲ得テ臺灣内地ニ入り樟腦ヲ買取リ之ヲ開港場ニ搬出スルヲ得ルニ止マリシモ實際ニ於テハ各地ニ集積所ヲ備ヘ資金ヲ土人ニ貸與シ其名義ヲ以テ製腦ニ從事シタリ故ニ名義上清國政府ハ外商ニ製腦ヲ許可セシコトナシト雖其實全島ノ樟腦業ハ全ク其左右スル所ニ任セ以テ我版圖ニ歸スルノ日ニ及ヘリ爾來或ハ樟腦製造業取締規則ヲ發布シ清國政府ノ許可證ヲ有スル者ノ外其製造ヲ禁止シ(明治二十八年)或ハ我現行條約ヲ本島ニ適用スル旨ヲ宣告シ(明治二十九年一月)或ハ樟腦稅則ヲ發布シテ一

定ノ課稅ヲ爲スニ方リテ(明治二十九年三月)事毎ニ外人ト衝突ヲ免ルルコト能ハス領臺當時ニ於ケル對外交渉事件ノ多クハ實ニ樟腦ニ關係セリ翻テ製造ノ狀況ヲ顧ルニ其方法ノ幼稚ナル内地ト比較スヘクモアラサリシノミナラス授受ノ際斤量ノ増加ニ由リ利益ヲ得ントシテ水分ヲ多量ニ包容セシムルカ爲混和物ヲ加ヘサルモノナク加之原料ノ豐富ナルニ任セ濫伐濫製殆ト底止スル所ヲ知ラス單ニ産額ノ多カラシコトニ汲々タリ而シテ製造者ノ經濟上ニ於ケル状態タルヤ僅カニ口ヲ糊スルニ過キス百斤ニ付樟腦十圓樟腦油三圓ノ課稅モ頗ル重キニ苦ミ百方密輸出ヲ爲スノ奸策ヲ運ラシ之ヲ遁脱センコトヲ圖レリ實狀此ノ如クナリシカ故ニ若シ此儘ニ放任シテ進ムトキハ品位ノ改良原料ノ持續共ニ施スニ術ナク天與ノ寶物ヲ暴殄スルニ了ランノミ是ヲ以テ外ニ對シテハ我商權ヲ回收シ需要ニ應スル適度ノ供給ヲ爲シ價格ノ維持ヲ計リ内ニ在テハ品位ノ改良原料ノ持續ヲ計ルノ道ヲ立ツルノミナラス之ヲ利用シ臺灣經營上理財ノ目的ニ副ハシメントス是レ即チ明治三十一年六月ニ至リ斷然臺灣ニ專賣制ヲ實行シタル所以ナリ

上來陳述シタルカ如ク外國人ノ我臺灣ニ來リテ樟腦事業ニ從事スルヤ茲ニ其年所ヲ經過シ因襲ノ久シキ其關係頗ル多岐ニ亘レリ彼等ノ本島ニ來リテ營業ヲナセシハ西曆千八百六十九年英清兩國ノ間ニ於テ締結シタル樟腦取締規則ニ據リシモノナリ今專賣制度ヲ施行スルニ當リ此取締規則カ地方的ノモノニシテ主權ノ更革アルモ猶其效力ヲ保ツモノナルヤ否ヲ決定セサル可カラス此問題ニ對シテハ主權ノ變移ト共ニ無論失效ノモノタルコトハ疑ナキ所ナレトモ外交上ニ涉リ事體輕カラサルモノナルヲ以テ倉卒ノ間ニ之カ解釋ヲ決定スヘキ

ニアラス故ニ總督府ハ明治三十二年一月二十二日ヲ以テ樟腦專賣制度施行ノ議ニ外國人關係ノ事ヲモ附記シ内務大臣ニ稟議セシニ同大臣ハ英清間ノ樟腦取締規則ハ地方的ノモノニアラスシテ主權ノ移動ト共ニ全ク消滅シタルモノナレハ專賣法制定ニ關シ外國人ニ於テ故障ヲ唱フルノ理由ナキモノト認メ更ニ同大臣ヨリ同年二月八日外務大臣ニ照會シテ意見ヲ求メラレタルニ是亦同意見ナリシモ事外國人ニ關シ慎重處理ヲ要スヘキヲ以テ更ニ閣議ヲ經テ請議ノ通り決定セラレタリ

比年臺灣ヨリ產出スル所ノ樟腦ハ時ニ消長アリト雖一年ノ輸出額三百萬斤ヲ前後スルモノトス今本島ニ於テ之カ專賣制度ヲ施行スルモ他ニ優勢ナル產出地アルトキハ遂ニ其效力ヲ失フニ至ラン是レ專賣實施前ニ於テ最モ精密ノ調査ヲ要セシ事項ナリトス然ルニ幸ニシテ南清地方ハ其產額微々タルモノニシテ算數ニ加フルニ足ラサルコト稍々分明セシヲ以テ唯剩ス所ハ内地ノ產出額如何ニアルノミ是ニ於テ總督府ハ農商務省ニ知照シテ内地樟腦產出額ノ實況ヲ質シタルニ年額三十萬斤ヲ出テサル旨ノ回答ヲ得タリ專賣制度ノ作用ニ依リテ價格ヲ上昇セシムルハ後來豫メ期スル所ナルヲ以テ此場合ニ臨ミ多少產額ノ増加ヲ見ルヘシト假定スルモ年額五十萬斤ニ上ラサルヘキヲ豫想シ專賣上著シキ影響ナキヲ認ムルコトヲ得ルニ至レリ

專賣制度ニ依リテ從來ノ密製造密輸出等ノ弊根ヲ絶ツハ敢テ難事ニアラサルモ蕃界ノ警備ニ至リテハ容易ノ業ニアラサルモノトス現時探腦ニ必要ナル樟樹ハ蕃界ノ森林ニ繁生スルモノニシテ其製腦ニ當テハ勢ヒ蕃地ニ侵入セサルヘカラス然ルニ蕃人等ノ無智ナル其製腦

者ノ入山ヲ以テ己カ領域内ヲ侵害セラレタルモノトナシ常ニ之ニ反抗スルノ意アリ舊清政府時代ニアリテモ其ノ出沒跳梁甚シク時ニ腦丁ヲ殺害シ腦寮ヲ焚燒セシコト甚カラス我占領以後ト雖之カ禍害ニ罹ル者年ニ幾許人ナルヲ知ラス故ニ製腦者ハ常ニ之ヲ怯レ蕃人ニ金圓或ハ物品ヲ贈リテ百方其甘心ヲ得彼等ニ害意ナキヲ盟ハシメ初メテ其製造ニ著手シ又ハ隘丁或ハ隘勇ト稱フル武裝者ヲ適當ノ地點ニ配置シテ之ヲ防護セシメ以テ探腦ニ從事スル等之カ經營ニ苦心慘膽セシモノナリ此等製腦者ノ保護ニ對シテハ從來政府ニ於テモ充分手ヲ盡セシモノナレトモ彌々專賣制度施行ノ曉ニ至ラハ猶一層ノ警備ヲ嚴ニシ各製腦者ヲシテ安全ニ業務ヲ執ラシメサル可カラス之カ設備ノ方針ニ至リテハ懷柔防壓ノ二者孰レニ依ルヘキカ是レ最モ難事ニ屬スル問題トス然レトモ是等ノ計畫モ他ノ調査ト共ニ大ニ進行シ

(第三章ニ詳述スル所ノ如シ)如上ノ困難事項モ略ホ解決セラレタルヲ以テ茲ニ臺灣樟腦專賣法ヲ確定スルコトヲ得從テ其施行ニ關スル諸般ノ準備ヲナスニ至レリ

專賣規則 明治三十二年六月二十二日律令第十五號ヲ以テ臺灣樟腦及樟腦油專賣規則ヲ發布セラレ其施行期日ハ府令ヲ以テ明治三十二年八月五日ヨリ實施ノコトニ規定セラレタリ其主ナル條項ヲ掲クレハ第一條ニ於テ樟腦及樟腦油ノ定義ヲ明ニシ第二條第三條ニ於テ製造者ヨリ收納シタル樟腦及樟腦油ハ總督ノ定メラレタル賠償金ヲ交付シテ之ヲ專賣シ政府ノ賣渡シタルモノニアラサレハ所有所持讓渡質入若ハ消費シ又ハ本島外ニ搬出スルコトヲ得サルヲ定メ第四條ニ總督指定ノ港灣ニアラサレハ之ヲ本島外ニ搬出スルコトヲ得サルヲ定メ第五條第六條ニ製造高届出方及賣渡ノ場合ヲ定メ第七條ニ監督上ノ行爲ヲ定メ第八條

以下第十三條ニ至ル各條ニ於テ犯則ノ場合ニ於ケル各制裁ヲ定メ別ニ附則四箇條アリテ諸雜件ヲ規定セラレタルモノナリ此專賣規則ト共ニ律令第十六號ヲ以テ臺灣樟腦及樟腦油製造規則ノ發布アリ本律令ハ十箇條ヨリ成リ製造者ニ對スル特許ノ場合其犯行者ニ對スル制裁ヲ定メラレタルモノニシテ前ノ專賣規則ト相待テ運用ヲナシ此二律令ニ據リ爾後各種ノ細則ヲ發布セララルルニ至レリ

第二節 專賣機關ノ創設

臺灣樟腦局官制 明治三十二年六月十日勅令第二百四十六號ヲ以テ臺灣樟腦局官制ヲ發布セラレタリ本官制ノ内容ハ樟腦局ハ樟腦及樟腦油ノ收納賣渡検査及製造ニ關スル事務ヲ掌理シ奏任事務官一人判任書記七十七人外ニ体給定額内ニテ技師技手ヲ置クコトヲ得各局ニ局長ヲ置キ事務官技師書記ヲ以テ之ニ充テ總督監督ノ下ニ其事務ヲ執リ臺灣樟腦局ノ名稱位置及其管轄區域ハ總督之ヲ定メララルルモノニテ此官制ニ據リ同月二十三日府令第五十一號ヲ以テ臺北新竹苗栗臺中林杞埔羅東ノ六箇所ニ樟腦局ヲ置キ各其方面ノ地方ヲ管轄セシメ其局ノ名稱ハ各其地名ヲ冠セラレタリ其總括ニ關スル管理事務ハ民政部殖産課ニ於テ之ヲ執行シタリ而シテ各樟腦局ノ管掌事務ハ羅東樟腦局ヲ除クノ外孰レモ樟腦樟腦油ノ收納検査及樟腦油ノ賣渡ニ關スル事ヲ取扱フモノニシテ其他特ニ臺北樟腦局ハ南門外工場及文山堡試製所ヲ有シテ甲乙種樟腦粗製樟腦樟腦油ノ製造及樟腦油再製試驗ヲ行ヒ新竹樟腦局ハ上坪試製所アリテ粗製樟腦樟腦油ノ製造ヲ行ヒ羅東樟腦局ハ單ニ叭哩沙試製所ヲ有シテ

粗製樟腦樟腦油ノ製造検査及樟腦油ノ賣渡ニ關スル事務ニ從事セリ而シテ其各局ニ配置セラレタル官吏ノ定員ハ左ノ如シ

- 臺北樟腦局 三十二人
- 新竹樟腦局 十一人
- 苗栗樟腦局 九人
- 臺中樟腦局 十二人
- 林杞埔樟腦局 六人
- 羅東樟腦局 七人

調査委員會 樟腦專賣ハ我邦未曾有ノ事業ニシテ歐米各國ニ於テ其類例ナキモノトス故ニ其規畫多クハ特殊ノ性質ニ屬シテ充分ノ研鑽ヲナスニアラサレハ容易ニ決定シ難キモノアリ且現下島内ニ於ケル製腦ノ狀況モ舊來ノ因襲ニヨリ各種弊根ノ其間ニ伏在スルモノアレハ此等ノ弊竇ヲ杜絶排除スルニハ是亦精細ナル調査ヲ要スヘキモノトス是ニ於テ乎總督府ハ此等ノ必要事項ヲ調査スルノ機關トシテ明治三十二年六月九日ニ樟腦專賣施行方調査委員會ヲ特設シ委員長以下左ノ通り命セラレタリ

- 委員長 總督府參事官長 石塚英藏
- 委員 總督府事務官 大島久滿次
- 同 同 祝辰巳
- 同 同 中村是公

委員	總督府事務官	浦太郎
同	總督府參事官	中山成太郎
同	總督府事務官	松岡辨
同	總督府技師	柳本通義
同	同	有田正盛
同	同	八戸道雄
書記	總督府屬	佐藤法潤

而シテ同會ハ明治三十二年七月二十二日其第一回ヲ開キ翌年三月迄會同十回ニ及ヒ産額ノ制限製造賣買及輸出取締樟腦油賣渡方法樟腦油賣渡價格樟腦運搬請負命令書案樟腦産額ノ改正樟腦油賣渡價格ノ變更納稅濟樟腦及樟腦油搬出期限延期ノ許否樟腦賣渡方法三十三年度樟腦油處分方法三十三年度樟腦油賣渡方法三十三年度樟腦豫定産額樟腦油賣下入札心得及樟腦入札書様式樟腦賣渡契約書案三十三年度樟腦油賣渡契約書案樟腦油賣渡豫定價格等ヲ議定セリ

第二章 特許

第一節 製腦特許方法

樟腦及樟腦油ノ製造ハ政府ノ特許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス特ニ官林ニ於テ其製

造特許ヲ得ントスル者ハ又同時ニ製腦ニ供用スヘキ樟木及雜木ノ拂下ヲ受クルノ必要アリ故ニ製腦志望者ハ官有森林原野産物賣渡規則ニ準據セル特賣願書ト共ニ製腦地ノ圖面及製腦設計書ヲ添付セル製造願書ヲ所轄地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ提出シ其特許ヲ得タルトキハ當日ヨリ六十日以内ニ製腦ニ著手セサルヘカラス而シテ製腦ニ著手シタルトキハ製腦區域地形、腦灶番號其位置ヲ明記シタル圖面及腦長股首腦丁其他備人ノ名簿ヲ具シテ届出爾後腦灶ノ變更製腦ノ減少、營業ノ休廢等重大ナル事項ハ總督ニ營業ノ承繼住所ノ移轉代理人ノ異動其他腦長腦丁備人等ニ關スル事項ハ地方廳ニ届出ヲナシ又製造シタル樟腦樟腦油ハ二十日以内ニ之ヲ所轄樟腦局ニ納付シ毎月ノ製造高納付高及月末現在高ヲ翌月五日迄ニ所轄樟腦局ニ届出ツル等ノ義務アリ其特許期間内ニ於テ營業ヲ廢止セントキハ殘存樟木及雜木ヲ返納シ之ニ對シテ賣渡當時ノ價格以内ニ於テ其代金ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得凡ソ特許ハ三箇年以内ノ期限ニ於テ之ヲ許可シ家督相續ニ依テ承繼スルノ外之ヲ他ニ移轉スルコトヲ許サス而シテ政府ノ賣渡シタル樟木ハ幹枝ノ全部ヲ製腦ニ供用シ其腦分盡クルニアラサレハ放棄スルコトヲ禁シ又或ル場合ニ於テ腦灶ヲ撤去セシメ製腦從事者ヲ解僱セシムルコトヲ特許人ニ命令シ腦長腦丁其他ノ備人ニハ一定ノ鑑札ヲ携帯セシムヘキコト等ヲ規定シテ製造監督ノ便ニ供セラレタリ但明治二十八年日令第二十六號官有林野及樟腦製造業取締規則明治二十九年府令第十三條樟腦製造業取締細則ニ據リ樟腦製造ノ認許ヲ受ケ猶其期間内ニ在ル者ハ此際ニ限り特許ヲ得タル者ト看做シテ取扱フヘキコトトナリ新制度ニ對スル特許事務ハ明治三十二年八月五日ヨリ實施セラレタリ

第三章 取締

第一節 樟腦及樟腦油ニ關スル取締

樟腦及樟腦油ニ關スル取締ハ之ヲ分テ沿岸其他ノ監視ト製腦地警備トノ二トナシ稅關樟腦局及各樟腦局所在地辨務署ト相待テ事務ヲ執リシモノニテ局ニ檢査官吏アリ局ト辨務署トニ兼務員アリ警察官ト互ニ氣脈ヲ通シ密輸出密製造密賣買及製腦上ノ保護監督其他專賣制度ニ對スル諸般ノ取締ヲ厲行セリ然レトモ本年度ノ施行ハ百事創草ノ際ナリシヲ以テ充分ノ成績ヲ見ル能ハサリシモ亦非常ナル事件ノ發生ヲ見サリシハ其取締ノ能ク效ヲ奏シタルモノト謂フヘシ今其經過ヲ左ニ敘述セントス

沿岸其他ノ監視 明治三十二年八月五日專賣制度ノ實施セラレタルヤ當時臺北ニ於ケル樟腦ノ市價ハ百斤ニ對シ六十圓乃至七十五圓ニシテ樟腦局ニ於ケル收納賠償價格ハ時價ノ半ニモ値セサルカ故ニ從前ノ利益ニ慣レタル從業者ハ新制度ニ遵ヒ官ニ收納スルヲ喜ハス或ハ專賣制施行前ノ製品ニ對シ諸種ノ奸策ヲ旋ラス者或ハ密製造密賣買密輸出ヲナセシ者或ハ樟腦油ニ對スル納稅證書ヲ以テ樟腦ヲ搬出セント企テシ者等アリ依テ樟腦局ハ檢査官吏及辨務署兼務員ヲシテ充分ニ之カ取締ヲ爲サシメ又一方ニ於テハ從業者ノ所有ニ係ル樟腦樟腦油ノ有無及其所有品ニ對スル納稅ノ既未濟等ヲ檢査セシメ著々事務ヲ進捗セリ三十二年七月總督府ノ各樟腦局ニ通牒セラレタル檢査要項ハ(檢査官吏ハ樟腦專賣規則第七條ノ場合ニ於テ重要ノ處置ヲナサントスルトキハ局長ニ急報シ其指揮ヲ受ケシムルコトトシ但犯

罪ニ係ル物件ト思料シ指揮ヲ受クヘキ猶豫ナキトキハ假ニ其物件ノ保護ヲ命シ告發ノ手續ヲ爲スコト山元製造場ニ臨檢スル場合ハ可成責任者ヲ同行案内セシムルコト等ニシテ之ニ據リ各樟腦局ハ當該官吏ヲシテ樟腦樟腦油ノ製造場同貯藏場及船舶ノ繫留場等ニ臨檢セシメ取締上必要ノ處置ヲ施行セリ右等取締ノ結果トシテ犯則者ヲ出スコト勘カラス今其犯罪ノ種類及人員ヲ左ニ表示ス

罪種別	臺北樟腦局	新竹樟腦局	苗栗樟腦局	臺中樟腦局	計
樟腦及樟腦油ヲ私ニ讓渡シタルモノ	1	1	1	1	4
樟腦及樟腦油ノ密輸出ヲ爲シタルモノ	1	1	1	1	4
樟腦ニ他物ヲ混和シタルモノ	1	1	1	1	4
樟腦及樟腦油ヲ密造シタルモノ	1	1	1	1	4
計	4	4	4	4	16

製腦地ノ警備 粗製樟腦ノ製造ハ生蕃界ノ森林中ニ於テ之ヲ營ムモノナルヲ以テ時ニ蕃人ノ襲來シテ腦長腦丁等ヲ誡首シ腦寮腦灶等ヲ焚毀シ營業上ニ暴害ヲ加フルコト勘カラス故ニ此等ノ營業者ヲ保護シ安全ニ業務ヲ執ラシメントスルニハ充分ニ防護ノ策ヲ講セサル可ラス而シテ其防護ニ充ツヘキ壯丁ハ武裝スルニアラサレハ爲ス能ハサルノ事業ニシテ清國政府ノ治下ニ於テ組織セラレタル隘勇警丁ノ制ヲ踏襲シ以テ防蕃ニ備ヘタリ即チ其當時ニ於ケル警備ノ方法ハ隘勇及警丁ノ制ニシテ臺北縣下及宜蘭廳下ニ設置セラレタルヲ警丁ト

稱シ臺中縣下ニ設置セラレタルヲ隘勇ト稱ス其名稱ノ分ルル所ハ組織及勤務ノ相異ヨリ來リシモノニテ警丁ニアリテハ全然警察官ノ指揮監督ヲ受ケ蕃界線内外ニ駐屯シ主トシテ蕃人ニ備ヘ傍ラ匪徒出沒ノ狀況ヲ視察スル等殆ト補助警察官ノ形體ヲ備ヘ其給與モ直接地方廳ヨリ之ヲ受ケシカ隘勇ニ至リテハ一ノ請負者アリテ政府ヨリ相當ノ補助金ヲ受ケテ所屬隘勇ヲ養フノ義務者トナリシモノナリ故ニ之ニ屬スル隘勇ハ請負者ノ部下ニシテ地方警察官ハ間接ニ之ヲ指揮監督セシニ過キス今其配置方面及人員ヲ舉クレハ左ノ如シ

臺北縣 警丁 百九十五人

竹北二堡十股庄ヨリ起リ南方臺中縣界附近ノ竹南一堡南庄ニ到リテ止ム

臺中縣 隘勇 七百七十四人

本線 臺北縣界ヨリ起リ南方苗栗一堡ヲ經棟東上堡罩蘭ニ到リ棟東上堡水底寮ヨリ北

港溪堡ヲ經埔里社北角堡小埔庄ニ到リ埔里社西角堡生蕃空庄ヨリ同堡鹿蒿庄ニ到リテ

止ム

支線 北港溪堡北港溪ヨリ同堡龜仔頭ニ到ル

宜蘭廳 警丁 百五十人

頭圍堡林尾庄ヨリ起リ西南員山堡ヲ經浮州堡天送埤ニ至リ天送埤ヨリ東ニ折レ清水溝

堡紅水溝堡ヲ經海岸ナル利澤簡堡蘇澳ニ到リテ止ム

以上列記セルカ如ク防蕃ニ從事スル人員ハ隘勇七百七十四人警丁三百四十五人合計千百十九人ヨリナリシモ其組織不完全ナルカ爲生蕃ノ襲來毎ニ我腦灶ニ損害ヲ蒙リ從テ樟腦產額

ニ影響ヲ及ホスコト尠ナラス然レトモ之カ設備ヲ完全ナラシムルニハ巨多ノ經費ヲ要シ時恰モ年度半ハナリシヲ以テ費途ノ出所空シク時日ヲ經過セシカ三十三年二月樟腦專賣所費中蕃界諸費ノ項ヲ新設シ金二萬四千六百二十圓ノ追加豫算ヲ公布セラレタルニ依リ茲ニ始メテ防蕃ノ必要ニ迫リタル臺北臺中兩縣下ナル一部ノ地方ニ警備事務ノ著手ヲ爲スコトヲ得ルニ至リ三十三年三月以降臺北縣下三角湧景尾南庄ノ各方面及臺中縣下罩蘭東勢角銃櫃庄附近ニ舊來配置ノ隘勇以外ニ更ニ人員ヲ増加シ以テ警備ヲ嚴ニセリ而シテ隘勇ノ備入解備並指揮監督ハ地方長官ノ委任ニ屬シ警察官ヲシテ直接ニ之カ事務ヲ執ラシメ同時ニ隘勇備使規程及隘勇服裝ヲ規定セラレタリ

宜蘭廳下ノ山地ハ元來殊ニ蕃害ヲ蒙ルコト多ク常ニ賊首ノ慘事ヲ演スルコト絶ヘス故ニ羅東樟腦局創設セララルヤ其第一著ニ設備ヲ要スヘキハ防蕃ノ方法ナリト是ヨリ先軍務局ニ於テ熟蕃人ノ壯丁ヲ召集シ之ニ軍事的教育ヲ施シ護郷兵ナル者ノ組織アリ恰モ好シ其解散ノ時機ニ際會シタルヲ以テ此等解散ノ兵丁五十名ヲ採用シテ之ヲ樟腦局壯丁ト稱シ又更ニ陸軍下士三名ヲ囑託シテ其指揮ト爲シ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ役シテ製腦業ノ保護ニ充テ一腦寮區域毎ニ二十名若ハ三十名ヲ配置シ以テ製腦場ノ警備戒護ニ從事セシメタリ然ルニ蕃人ノ兇暴ハ依然トシテ甚タシク到底現在ノ人員ニテハ之ヲ防遏スルコト克ハサリシヲ以テ同年十月更ニ壯丁ノ備入規定ヲ設ケ之ニ據リテ在來ノ壯丁志願者中ヨリ二十名ヲ選拔シ臨時ニ之ヲ備入レ又同年十二月ニ至リ再ヒ十名ヲ増員シ以テ壯丁ノ不足ヲ補ヒ防蕃ノ事ニ當ラシメタリ然レトモ猶完全ニ蕃人ノ兇行ヲ防止スルコト能ハス遂ニ左表ノ如ク

蕃害ヲ見ルニ至レリ
蕃人加害表

區別	死	亡	傷	痰	計
腦丁	一人			一人	二人
壯丁				四人	九人
合計		六		五	一一

三十三年三月以降舊來配置ノ隘勇以外ニ更ニ人員ノ増加アリタル顛末ハ前既ニ述ヘシ如クナルカ今其増員ノ配置ヲ各地ノ方面ニ區別スレハ左表ノ如シ

防蕃員配置表

臺北縣				臺中縣			
地名	警部	巡查	隘勇	地名	警部	巡查	隘勇
三角湧	二人	二六人	三二〇人	單蘭	一人	一人	六〇人
景尾		五人	六〇人	東勢角			一人
南庄		九	八〇人	銃櫃庄			二人
計	二	四〇	三六〇	計		三	八五

而シテ此増員ニ對シ地方長官ノ定メタル隘勇線ノ區域ヲ掲クレハ
臺北縣

- 一、景尾辨務署管内粗窟ヨリ起リ雷公坡、双溪口、礦窟、仁叭仔ヲ通過シ橫溪ニ至ル間 六十人
- 二、三角湧辨務署管内景尾界十七寮ニ起リ十三添ヲ經テ金面山附近ニ至ル間 四十人
- 三、同大崙界内水溪東ニ起リ金平社、ハブン社、ラハウ社、奎輝社、阿母坪、舊柑石門ヲ經テ十寮ニ至ル間 百八十人
- 四、新竹辨務署管内大楠、八卦力、大東勢、小東勢ヲ經テ獅里與庄ニ至ル間 八十人

臺中縣

- 一、苗栗辨務署管内哆囉囉溪上流竹橋頭ニ起リ南食水山内、内灣庄頭ヲ經テ房里溪ニ至ル間 六十人
 - 二、臺中辨務署管内東勢角附近 十人
 - 三、南投辨務署管内集々堡銃櫃庄附近 十五人
- ニシテ此隘勇ノ配置定マルト共ニ其採用及解備ニ關スル内規等ヲ定メ管轄地方長官ヨリ關係地辨務署長ニ訓達シ續テ隘勇監督ノ機關トシテ適宜ノ場所ニ監督所ヲ設置シ銃器四百四十五挺彈藥十七萬五千發及道路開鑿ノ用具トシテ銃、山銃合計二百六十四挺ヲ配布シタリ
- 隘勇ノ取扱ハ總テ一定ノ規程ニ據ルヘキモノナルモ臺中縣下ニ於ケル隘勇ハ地方廳ノ直轄ニ屬スルモノト人民ノ請負ニ係ルモノトノ別アリテ其直轄隘勇ニ對シテハ別ニ手當金及貸與品巡視監督法勤務方法等ノ規程ヲ設ケ又隘勇請負者ニ對シテハ更ニ條件ヲ備ハタル請負命令書ヲ縣知事ヨリ交付シテ明治三十三年三月ヨリ毎月金四百八十圓ヲ官給補助セラレタリ

警丁ノ廢止ト隘勇名稱ノ變更 臺北縣下及宜蘭縣下ニ於ケル警丁ハ年度ノ改更ト共ニ隘勇ト改稱シ又樟腦局壯丁ハ同時ニ之ヲ宜蘭廳ニ移シテ隘勇ト稱セリ之ニ對スル費途ハ全然樟腦專賣所費ノ支辨ニ歸セシムルコトナリ明治三十三年三月末日限り警丁及壯丁ヲ廢シテ同年四月一日ヲ期シ隘勇ヲ設置スヘキ旨達セラレ又同時ニ臺中縣下ニ隘勇ヲ増設シ而シテ民設ニ係ル請負隘勇ハ之ヲ隘丁ト改稱セシムル旨ヲ達セラレタリ

第四章 製造

第一節 製腦機關ノ設備

臺灣樟腦局ニ於ケル直接製腦機關ハ臺北新竹羅東ノ三局ニシテ臺北樟腦局ハ粗製樟腦ノ買收事務ヲ取扱フノ外南門外工場及文山堡樟腦試製所アリテ甲種樟腦ノ製造樟腦油ノ再製試驗並粗製樟腦ノ製造ヲ爲シ新竹樟腦局モ亦買收事務ノ外上坪樟腦試製所アリテ粗製樟腦ヲ製造シ羅東樟腦局ハ純然タル官行事業トシテ特ニ製腦地ヲ有シ粗製樟腦ノ製造ヲナシタリ臺北樟腦局南門外工場 ハ甲乙種樟腦製造及樟腦油再製試驗ヲ爲ス所ナリ其敷地ハ臺北縣大加蚋堡龍口匣庄ノ内一萬千二百三十坪一合七勺ヲ買上タルモノニシテ工場及諸機械等ノ設計ハ囑託松田茂太郎ノ特許權ヲ有スルモノニシテ工場ノ建造ハ明治三十二年七月總督府土木課及松田囑託ノ監督ニテ工ヲ起シ同三十二年十二月三十一日竣工ヲ告ケ製造用諸機械ノ据付ハ該工事進行中併セテ之ニ著手シ翌三十三年一月三十一日ニ至リ之ヲ終了シ尋テ同

年二月八日ヨリ甲種樟腦製造ニ著手セリ本工場ハ汽鐘、汽機、扇風機及昇華釜六箇ト之ニ對スル冷却室三箇所油水分流送室六箇所冷却タンク三箇壓搾機十六臺トヨリ成ルモノナリ臺北樟腦局文山堡試製所ハ 別ニ工場等ノ設アルニアラス本局ヲ距ル約六里ナル楓仔林ノ地ニ假事務所ヲ置キ局員出張シテ其事務ヲ執リシモノニテ粗製樟腦ハ總テ歸順土匪ノ製造ニ係ルモノトス初メ陳秋菊等ノ徒文山堡山谷ノ地ニ據テ亂ヲ謀リシカ後其非行ヲ悔ヒ部下ヲ率ヒテ歸順スルヤ授産ノ爲メ製腦ヲ許可セラレタリ然ルニ專賣制施行ニ際シ此等ノ徒ニ前業ヲ繼續セシメントスルモ其資格ニ缺クル所アルヲ以テ特許ヲ與フル能ハス然レトモ其製腦ヲ廢止セシムルトキハ復タ浮浪ノ徒トナリテ前轍ヲ再ヒスルノ虞ナシトセス是ニ於テ乎一時便宜上彼等ニ恒産ヲ授ク定業ニ就カシムルノ目的ヲ以テ三十二年九月九日秋菊外六名所有ノ腦灶五百二十五箇及製腦用器等ヲ金九千二百九十五圓ニテ總督府ニ買上ケタリ是レ文山堡ニ於ケル製腦官行事業ノ蓋駕ニシテ爾來臺北樟腦局ハ之カ監督ノ任ニ當リ樟腦製造ノ用器等一切ヲ彼等ニ貸與シ單ニ粗製樟腦ノ製造ノミヲ爲サシムルコトナレリ初メ腦灶及製腦用器等ノ買上ヲ裁決セララルヤ其事務ハ總テ民政部殖産課ノ取扱タリシカ三十二年九月十五日ヨリ臺北樟腦局ノ主管ニ屬シ同月十六日其物件ノ授受及代金仕拂等ヲ了シ同時ニ秋菊等七名ニ製腦請負ヲ命令シ同年十月十四日ニ至リ文山堡楓仔林街ニ試製事務所ヲ開設シ主任ヲ定メテ製腦事務ヲ監督セシメ併セテ其生産品ヲ收納スルコトナリシモノナリ而シテ陳秋菊ノ請負ニ屬スル腦灶ハ文山堡石空仔坑石空仔坑頭中心崙板倒格火炎山等ノ山中ニテ百九十三箇陳嗜飽ノ請負ニ係ルモノ猪糟坑等ニテ七十三箇鄭文流ノ分平塔等ニテ三

十六箇徐祿ノ分横田大坑等ニテ百十四箇李伍ノ分小赤皮脚等ニテ三十三箇高蘭ノ分冷水坑ニテ二十一箇王厝ノ分倒梢楠坑ニテ十四箇合計灶數四百八十四箇(買上灶數五百二十五箇ニ對スル不足四十一箇ハ買上後廢灶ニ歸シタルモノ)ニシテ右ニ掲タル陳秋菊以下七名ノ徒ハ皆前ニ述ヘシカ如キ土匪ノ巨魁タルモノニシテ夫々部下ノ土民ヲ使役シテ製腦ニ從事セシメ臺北樟腦局長ノ發セシ命令ノ範圍内ニ於テ操作ヲナシ其製造ノ樟腦ハ百斤ニ付上等三十圓中等二十七圓下等二十四圓樟腦油十五圓ノ割合ニテ其製造費ヲ支辨シ此費額ノ内ニ於テ臺北マテノ運賃ハ彼等ノ負擔ニ屬セシメシモノナリ

新竹樟腦局上坪試製所 上坪庄方面ニ於ケル「マイバライ」社蕃人ハ頑愚ニシテ常ニ兇行ヲ絶タス故ニ膺懲ノ爲明治三十一年之ヲ討伐セラレタリ然ルニ十八兒社ト稱スル蕃人ノ部落討伐軍ノ通路ニ當リ恰モ戰鬪線内ニアリシヲ以テ其軍ニ抵抗シタルモノニアラスト雖不幸ニシテ其部落ノ大半ハ兵燹ニ罹リ財産ヲ烏有ニ歸シ加フルニ凶作ナリシヲ以テ土物ヲ得ル能ハス交々飢渴ニ迫レリ是ヲ以テ蕃人等其活路ヲ得ンカ爲製腦ヲ希望スルモノアリ故ニ新竹樟腦局長ハ蕃人ノ請ヲ酌量シ明治三十二年九月十八日其實況ヲ報告シテ樟腦試製所開設ノコトヲ上司ニ上申シ十八兒社ニ於ケル蕃人所有ノ腦灶即チ與十八兒ニ於テ五箇中央寮ニ於テ二箇中十八兒社ニ於テ三箇ヲ使用シ試製ヲ行フコトヲ定メ其製造費ハ百斤ニ付樟腦十四圓樟腦油六圓トシ別ニ腦灶使用料トシテ一箇月一箇所ニ付二圓上坪ヨリ新竹樟腦局ニ至ル運賃百斤ニ付一圓六十錢ヲ仕拂フコトトシ同年十一月十八日上坪樟腦試製所ト稱シテ事業ヲ開始セリ是ニ於テ右等蕃人ハ一時ノ飢渴ヲ免レタルノミナラス爾來耕耘ノ餘暇ヲ以テ製

腦ニ從事スルコトヲ得遂ニ試製所ニ於ケル勞力供給者ノ觀ヲナスニ至リシモノナリ
羅東樟腦局叭哩沙試製所 明治三十二年七月羅東樟腦局ノ開設アルヤ同所ニ於ケル製腦地ハ月眉柑仔坑ノ二箇所ニシテ局ヲ距ル三里餘ノ蕃地ナルヲ以テ製腦ノ監督上ニ不便掛カラス故ニ局ヲ距ル二里餘製腦地ニ約一里ナル叭哩沙ニ出張所ヲ置キテ製腦ニ對スル直接監督ヲ行フコトト爲シ便宜上月眉ヲ二區柑仔坑ヲ三區ニ分チ區域ヲ定メ其一區内ノ灶數ハ二十箇乃至三十箇ヲ築造シテ製腦スルコトトナレリ而シテ其製腦ノ構造ハ丸木ヲ柱トナシ藤ヲ以テ之ヲ縛シタル葦葺小屋ニシテ場所ノ廣狹水利ノ便否ニ因リ一腦寮ニ二三十灶ヲ設ケタルモノニシテ同年八月ヨリ試製ニ著手セリ元來製腦ハ其原料ニ供スヘキ樟樹ヲ得ルニ便宜ノ地ヲトシテ設置スヘキモノナルヲ以テ其所在ノ樟樹ヲ伐截シ盡ストキハ更ニ原料ノ豊富ニシテ水利ノ便ナル地ヲ撰定シテ移轉セサル可カラス此移動ハ總テ總督府ノ允許ヲ經ヘキモノニテ先ツ第一著トシテ其撰定地ニ達ズル山間ヲ開鑿シ道路ヲ造リ以テ交通ノ便ヲ開キ始メテ製腦現用ノ諸器械用具等ノ運搬ヲ爲スモノナリ即チ製腦ハ樟樹ヲ追テ轉造スルモノナリ而シテ其移轉ニ要スル經費ハ水槽ノ用材ヲ内地ニ仰キ且腦灶ノ建設ヲ完全ニスルカ故ニ之ヲ從來ノ製腦業者カ行ヒシ轉造費用ニ比スルトキハ固ヨリ多額タルヲ免レス本試製ノ成立ハ右ノ如クナルヲ以テ前項ニ記シタル文山堡試製所ノ其製造ヲ歸順土匪ニ請負ハシメ上坪試製所ノ其操作ヲ窮困生蕃ニ爲サシメタルトハ大ニ其趣ヲ異ニシ本試製所ハ直接ニ事業ヲ經營シタルモノナリ

第二節 作業及生産

樟腦製造高及原料消費高 明治三十二年度ニ於テ製造シタル甲種樟腦整裝ヲ施シタル乙種樟腦ノ産額及之ニ對スル原料消費高左ノ如シ

種別	原料消費高	樟腦製造高	製造減高
甲種樟腦	六〇三、九六八	五一七、六三三	八六、三三四
乙種樟腦	四〇〇、〇七〇	四〇〇、〇七〇	—
計	一、〇〇四、〇三八	九一七、七〇三	八六、三三四

職工備入 本邦ニ於テ甲種樟腦製造ニ經驗アル職工ヲ得ルコトハ極メテ難事タリ故ニ臺北樟腦局ニ於テハ專ラ神戸ナル日本樟腦株式會社ニ於テ備使セシ職工ノ内妻帶者ヲ撰ヒ夫妻共ニ備入レ且ツ本島人中後來業務ニ耐フヘキ男女ノ職工ヲ撰拔シ三十二年九月ヨリ之ヲ採用セリ然レトモ本年度ニ於テハ創業ノ際ナリシヲ以テ翌年二月初旬迄ハ工場準備ノ爲ニ之ヲ備使シ爾來各々樟腦製造ノ業ニ從事セシメタリ本期間ニ於ケル職工ノ月末人員及延人員左表ノ如シ

職工月末人員及延人員表(内ハ内地人 土ハ本島人)

月別	職工別	月末人員	延人員
九月	土内	一九八	一三三

月	職工別	月末人員	延人員
十月	土内	二〇四	一六〇
十一月	土内	二〇六	一六六
十二月	土内	二一九	一七四
一月	土内	三〇〇	一九二
二月	土内	三二五	—
三月	土内	三二四	—
計	土内	一八七	二六四

而シテ本年度樟腦ノ製造ハ二月八日ヨリ開始セシヲ以テ職工ノ製造ニ從事セシ日數ハ總計五十二日間此延日數三千六百九十二日ニ過キス然レトモ此間甲種ノ製造乙種ノ混製ヲ合テ生産セシ樟腦ハ實ニ九十一萬七千七百三十斤半ノ多キニ上リ職工一人一日ニ對スル平均製造高二百四十八斤六分ニ當レリ

第三節 文山堡試製所成績

粗製樟腦及樟腦油生産高 三十二年十月陳秋菊外六名ノ製腦請負業開始以來三十三年三月ニ至ル樟腦及樟腦油生産高月別表左ノ如シ

粗製樟腦製造高月別表

月別	等別	三十二年		三十三年		計
		上	中	下	計	
十月	三十二年	二,〇六八	一,二五五	八九三	三,三二二	
十一月		一五,〇二二	五,六三七	一一,一九	二一,五五二	
十二月		一七,〇八九	五,七三八	一一,一九	二二,九四六	
一	三十三年	一六,九四二	七,九四八	二,二四九	二七,一三九	
二		一,五六四	五二四	三八	二,一六	
三		三三,三四〇	二〇,二〇四	一,八一五	五五,三五九	
計		八六,〇二五	四一,三〇六	六,一四	一三三,四四五	

樟腦油生產高月別表

品名	三十二年		三十三年		計
	十月	十一月	十二月	一月	
樟腦油	一,八三八	一,三四四	一,五八九	一,八〇八	八,五九八

第四節 上坪試製所成績

明治三十二年十一月下旬ヨリ舊來ノ腦灶十箇ニテ製腦ニ著手セシト雖蕃人等農業ニ從事シテ製腦ニ力ヲ致ササルト流行感冒ニ罹ル者多キ等ノ爲蒸腦ヲ休止スルニ至ル者アリ故ニ其產出額微々トシテ振ハス平均ニ箇月粗製樟腦七十斤樟腦油四十三斤ヲ得ルニ止マレリ今其

數量ヲ月別ニ掲レハ左ノ如シ

粗製樟腦及樟腦油產出高月別表

種別	三十二年		三十三年		計
	十月	十一月	十二月	一月	
樟腦	二二九	八七	五四	八二	三五二
樟腦油	五九	二八	六〇	六八	二一五

第五節 叭哩沙試製所成績

製腦及原料採集用器具 羅東樟腦局ハ其製腦ニ要スル器具ハ土佐ニテ從來製腦家ノ使用セシモノヲ採用セリ之ヲ假ニ土佐式ト稱フ其一灶ニ對スル用器ノ名稱ヲ列記シ併セテ其圖形ヲ左ニ示サン

- 釜 一 箇
- 通筒 一 本
- 瓶 (仕込棒一本ヲ附屬ス) 一 箇
- 水槽冷却器 四 箇
- 前槽一名ヲ子船ト稱シ上槽下槽ノ二箇ヲ重ヌ
- 後槽一名ヲ親船ト稱シ上槽下槽ノ二箇ヲ重ヌ
- 滴桶 一 箇

又製腦原料ノ採集ニ要スル器具ハ

受桶

漏斗

柄杓

木片出

斧

手斧

山鍬

鋸

砥石

背負籠

木片蒔

ナリ

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

筒

筒

筒

筒

挺

挺

挺

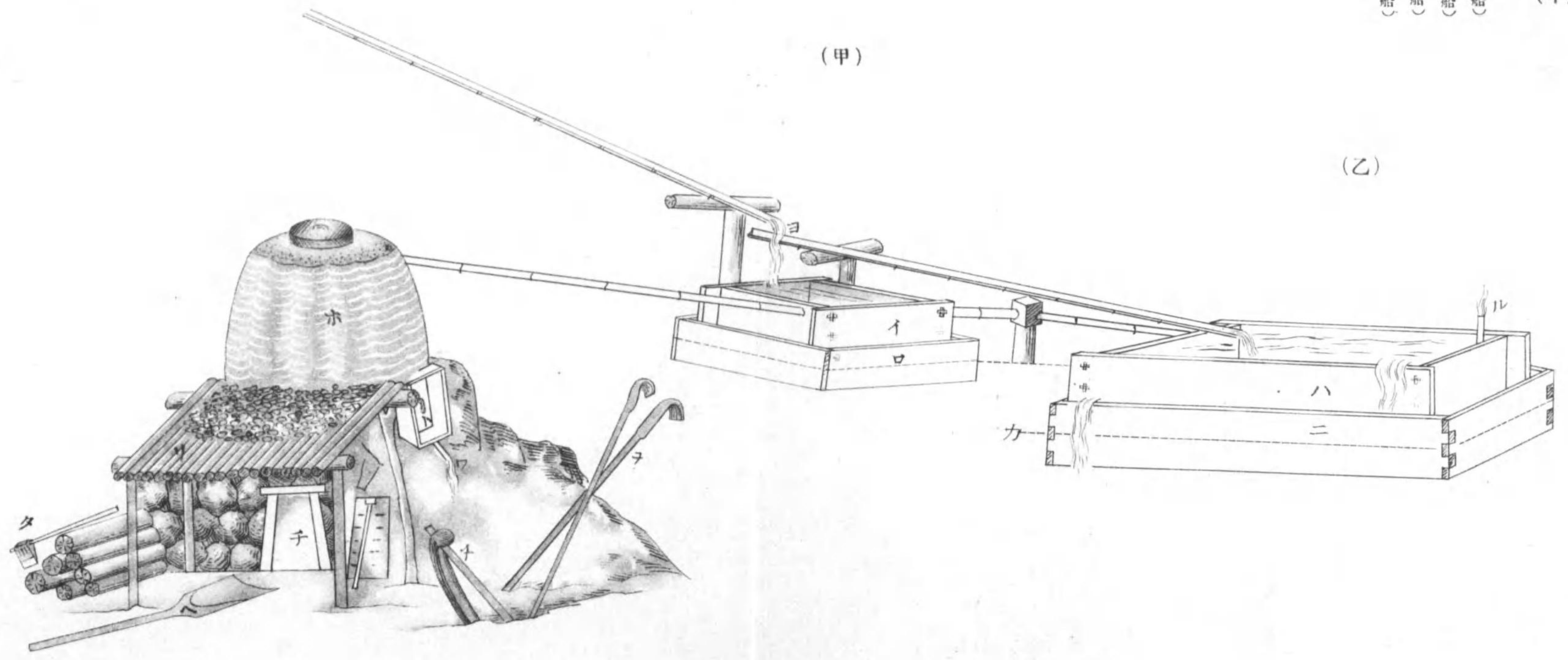
挺

筒

枚

製腦及原料採集用器具之圖(附腦灶)(甲)

- イ 前槽ノ上槽(二名小船ノ上船)
- ロ 同 下槽(二名小船ノ下船)
- ハ 後槽ノ上槽(二名大船ノ上船)
- ニ 同 下槽(二名大船ノ下船)
- ホ 甑
- ヘ 十能
- ト 木片出口
- チ 焚火口
- リ 蒸餾滓乾燥棚
- ヌ 手斧(樟片削用)
- ル 加減筒
- ヲ 木片搔
- ワ 水加減筒
- カ 地盤
- ヨ 筧
- タ 斧

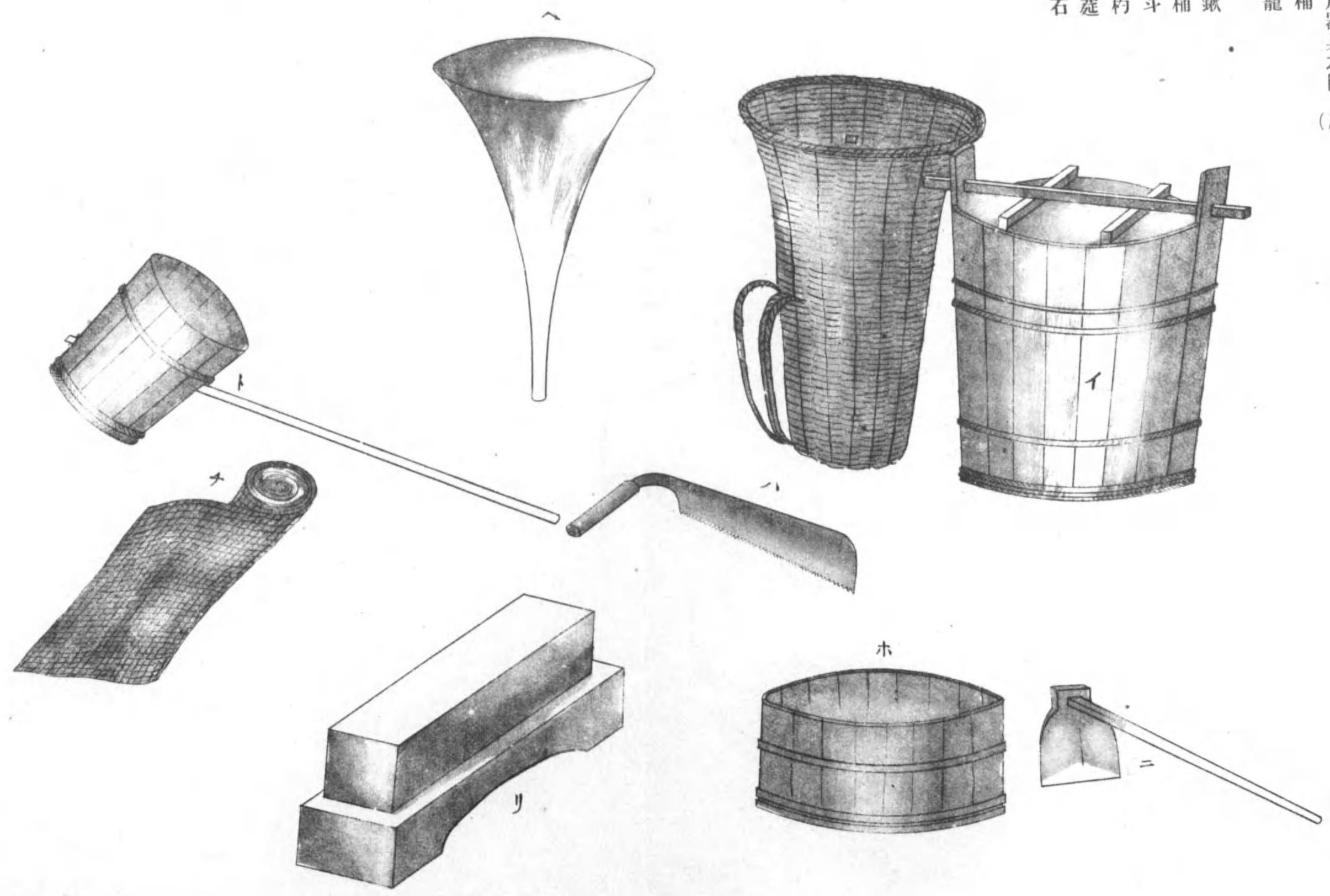


(甲)

(乙)

製腦及原料採集器具之圖 (乙)

イ 滴 桶
ロ 背 負 籠
ハ 鋸 山 鉢
ニ 受 斗
ホ 漏 斗
ト 柄 杓
チ 木 片
リ 砥 石



腦灶ノ構成 腦灶ノ築造ハ粘土及石材ヲ用ヒ前面ニ縱一尺二寸巾上部ニ於テ七寸二分下部ニ於テ一尺ノ焚火口ヲ設クルモノニシテ之ヲ造ルニハ當初丸木ヲ上下左右ニ組立テテ之カ模型ヲ作り同寸法ニ適應シタル石材ヲ以テ其口ノ左右外側ニ建テ上部ニハ厚凡二寸五分巾四寸五分ノ板石二枚ヲ重ヌ此二枚ヲ重ヌルハ火力ニ堪ヘシメン爲ナリ又鍋ヲ据付クヘキ灶ノ上部ハ空開シ周圍ノ全體ハ粘土ニ石ヲ交ヘテ之ヲ塗リ之ニ徑二尺六寸以上二尺八寸迄ノ鐵製平鍋ヲ裝置シ其鍋底ハ火口ナル額石下邊ヨリ約五分ノ高位ヲ保タシメ焚火口ニ鐵葉板製ノ蓋ヲ設ケ之カ嵌メ外シノ位置ニ依リ火力ノ加減ヲ爲スノ用ニ供スルモノトス即左圖ノ如シ

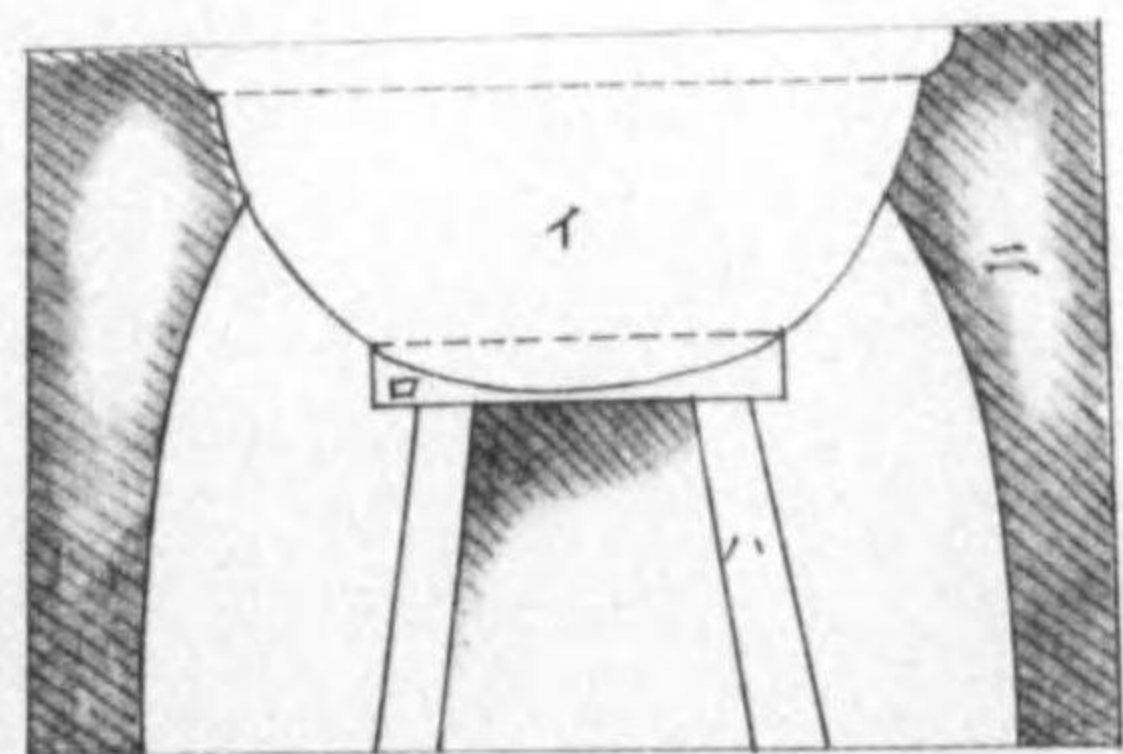
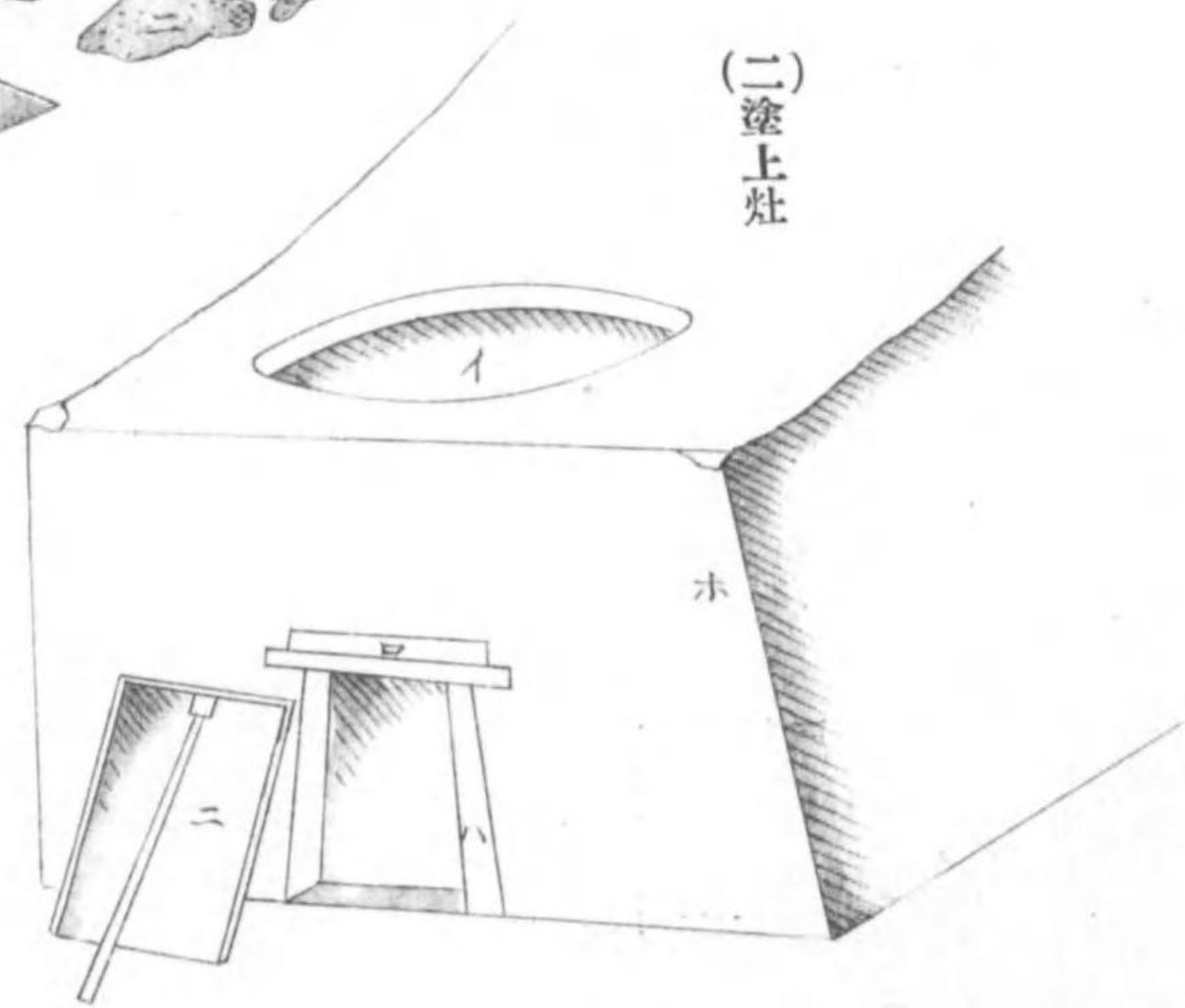
(一)
 イ 鐵製平鍋
 ロ 額石及柱石
 ハ 栗
 ニ 粘土
 ホ 鐵葉板

(一) 築灶材料



(二)
 イ 平額
 ロ 柱
 ハ 灶蓋
 ホ 石鍋

(二) 塗上灶



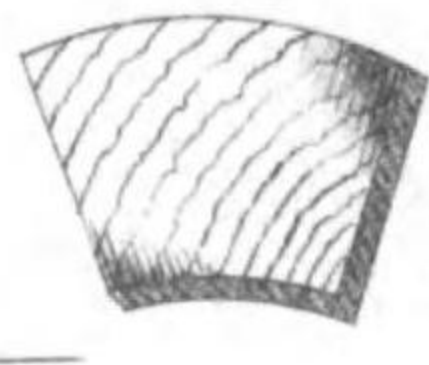
(三) 灶正斷面

(三)
 イ 平額
 ロ 柱
 ハ 灶
 ニ 石鍋

腦灶ノ築造ハ右ノ如クナルカ之ニ連絡シタル製腦器ノ裝置ハ以上鐵製平鍋ノ周邊ニ第一圖ノ如ク「ゲス」板ヲ置キ其上ニ第二圖ノ如ク甌ノ拮付ヲ爲シ第三圖ノ如ク甌ノ内徑ニ準シテ敷棧ヲ配列シテ之カ取除キニ便ナラシメ其敷棧ニ小孔ヲ穿チテ蒸氣ヲ通セシメ其四周ニハ第四圖ノ如ク竹又ハ籐ノ類ヲ以テ甌ト同等ノ高サニ外圍ヲ作り其甌ト外圍トノ空間ニハ砂交リノ粘土ヲ塗没シ以テ甌ノ熱度ヲ補ヒ蒸氣ノ壓力ニ因リ甌破裂ノ危險ヲ防止スルモノニテ此甌ノ上部ニ蓋ヲ爲シ第五圖ノ如ク該蓋ノ下部約一寸ナル甌ノ後部ニ小孔ヲ穿チ之ニ通管ヲ設ケ水槽ニ通セシム其角度ハ六尺ニ付二寸下リノ勾配ヲ保タシメ以テ甌中ノ蒸氣ヲシテ他ノ一方ニ通シ冷却セシムルノ裝置トス

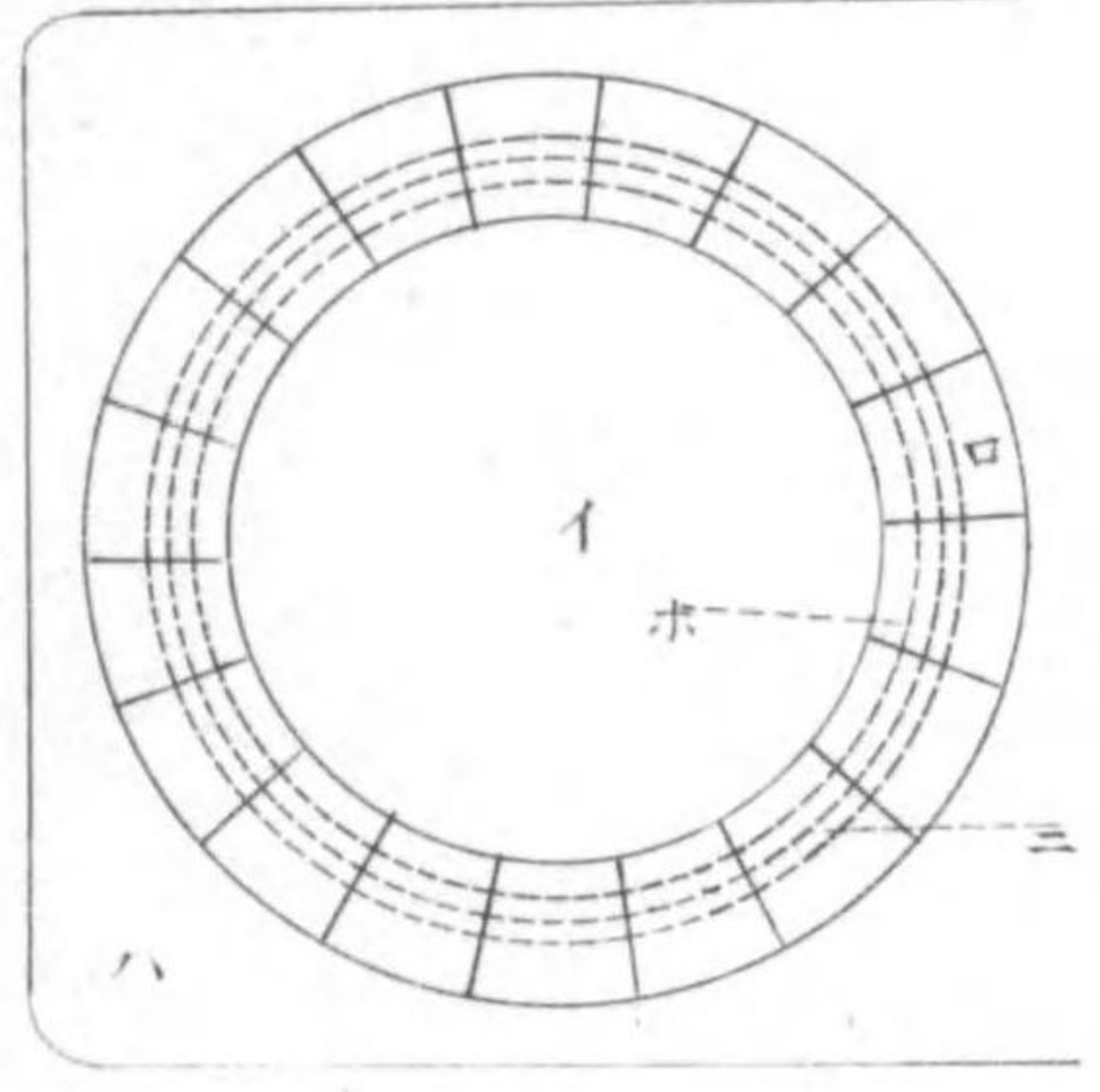
第一圖 下須板ノ配置

(三) 下須板一枚ノ形



イ 平鍋ノ底
 ロ 下須板
 ハ 灶ノ上部
 ニ 櫃ノ下端下須板接觸
 ホ 平鍋周邊下須板接觸

(二) 下須板装置ノ平面



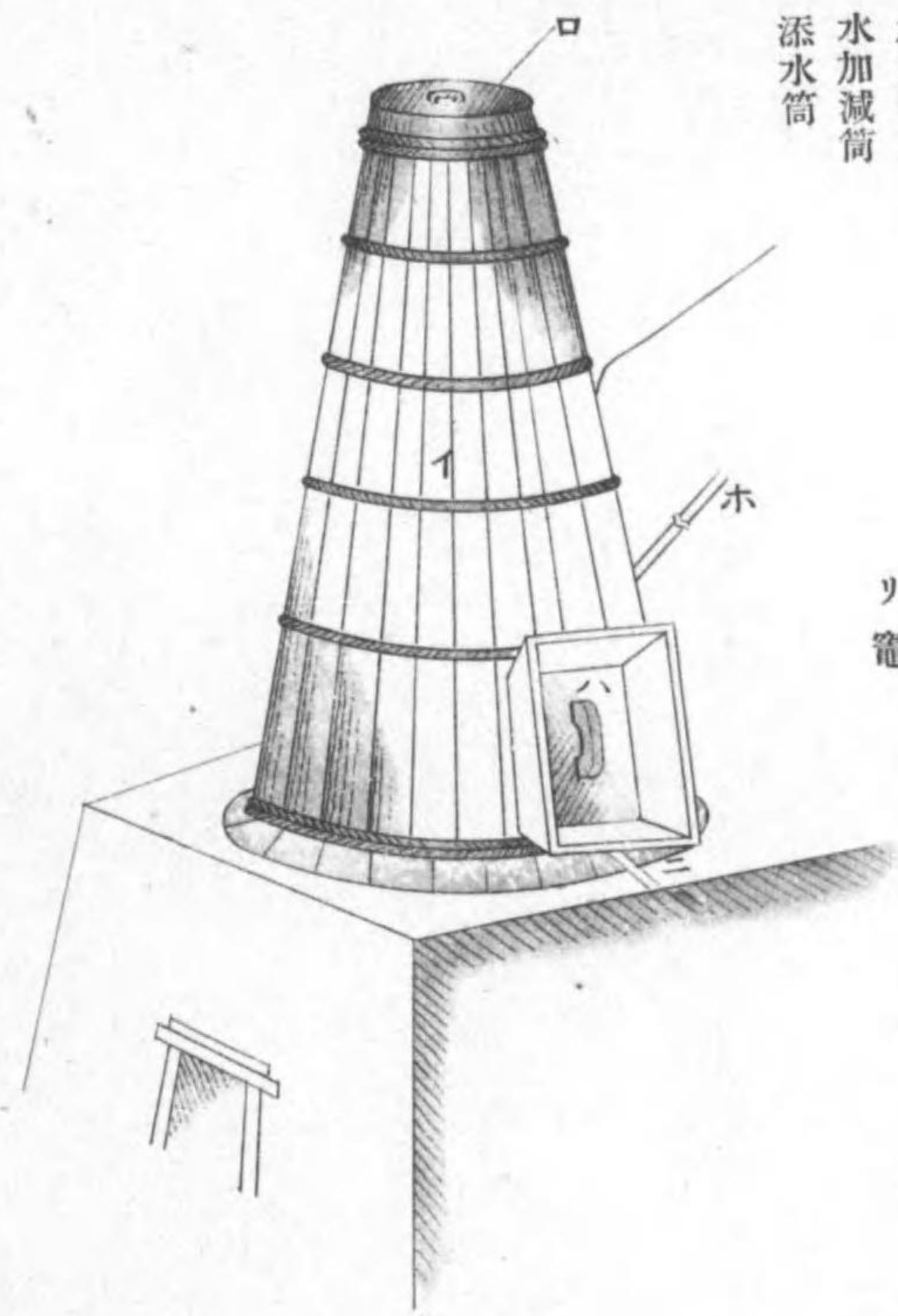
(一) 下須板装置



第二圖瓶ノ据附

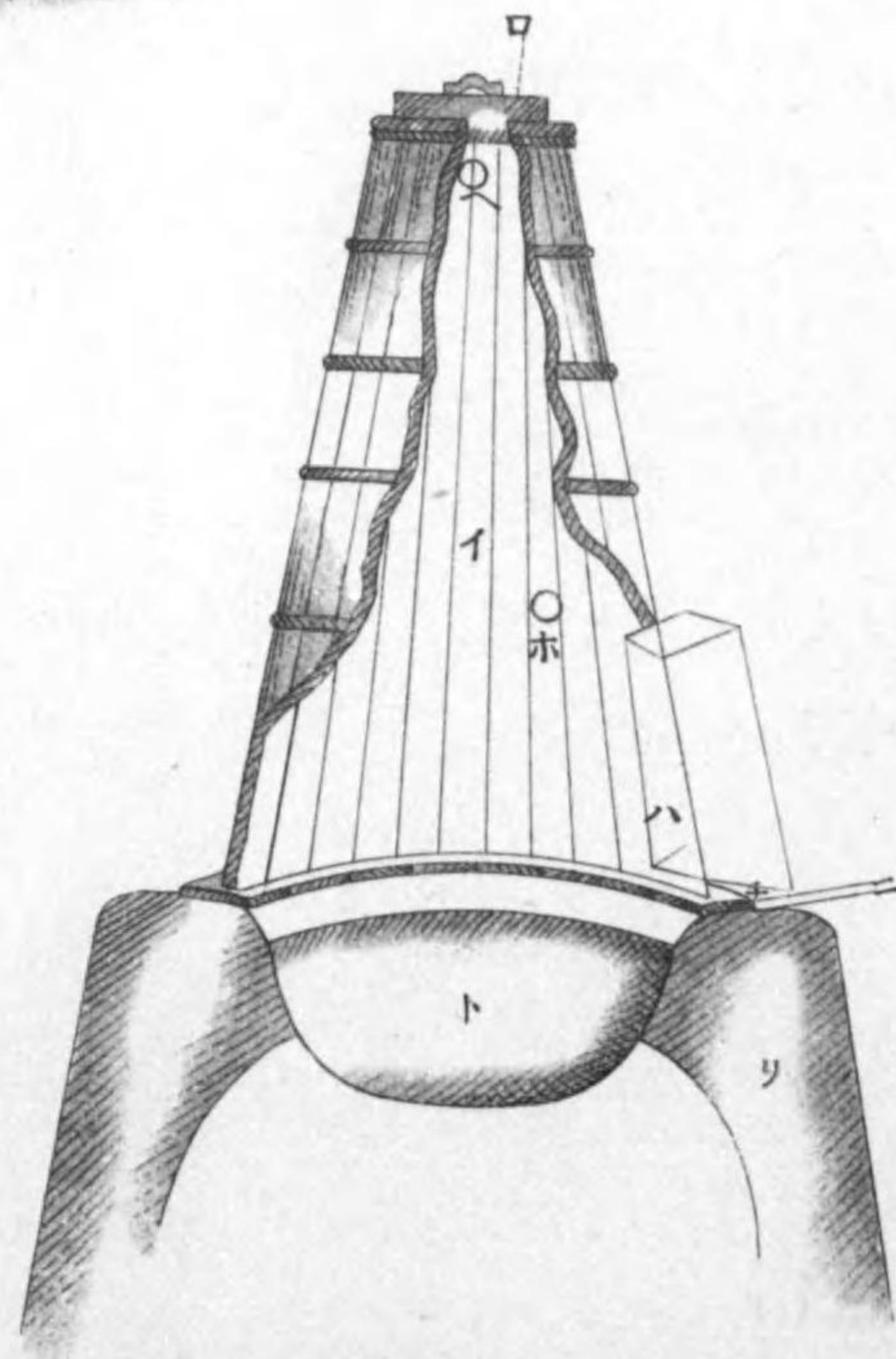
(一)

イ 瓶
ロ 蓋
ハ 木片出口
ニ 水加減筒
ホ 添水筒



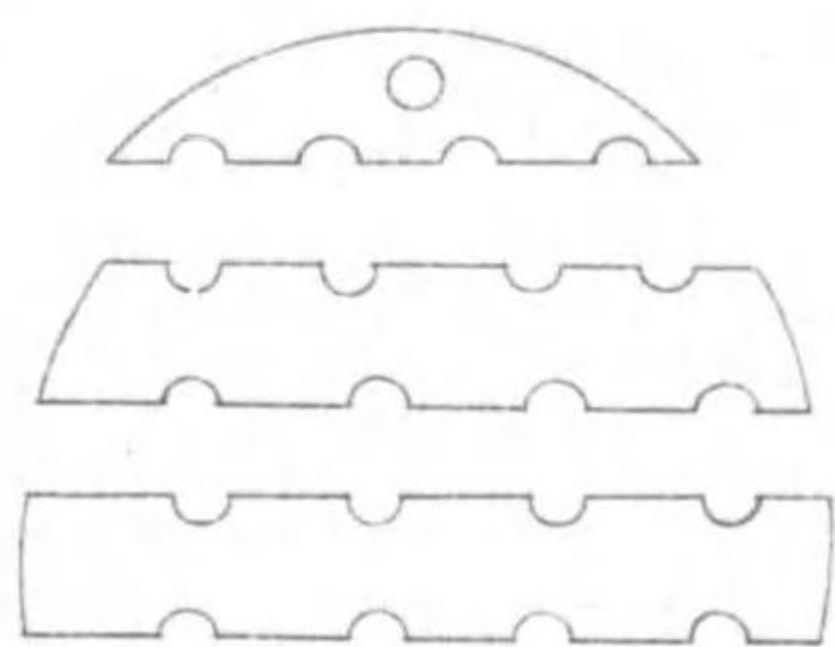
(二)

イ 瓶
ロ 蓋
ハ 木片出口
ニ 水加減筒
ホ 添水筒
ヘ 通筒口
ト 平鍋断面
チ 下須板
リ 竈

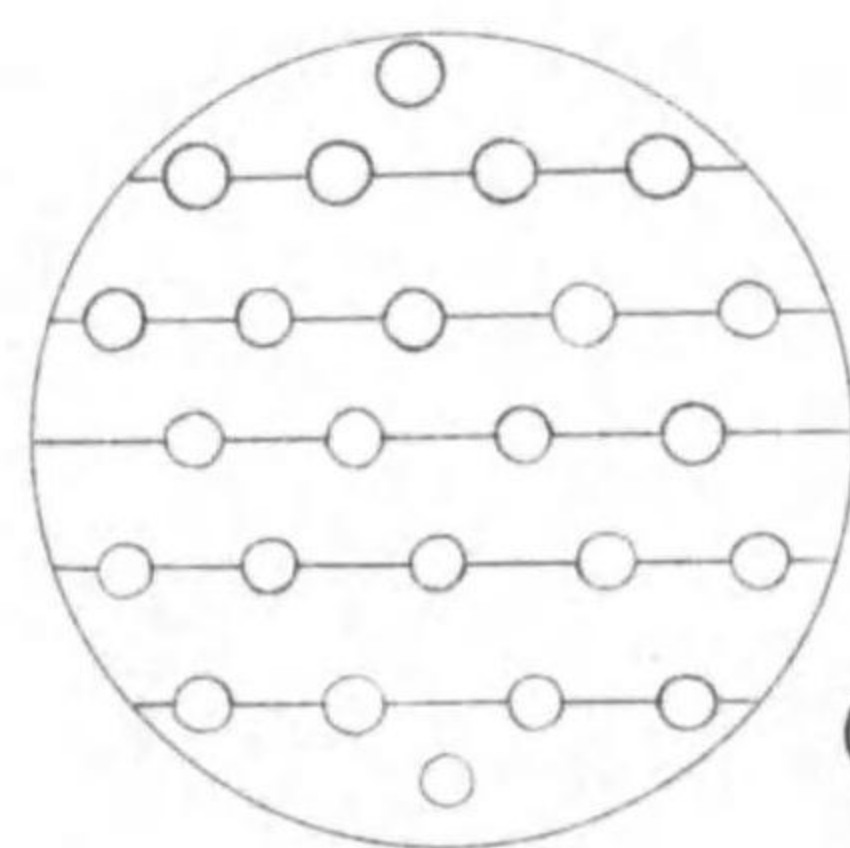


第三圖 敷棧ノ配列

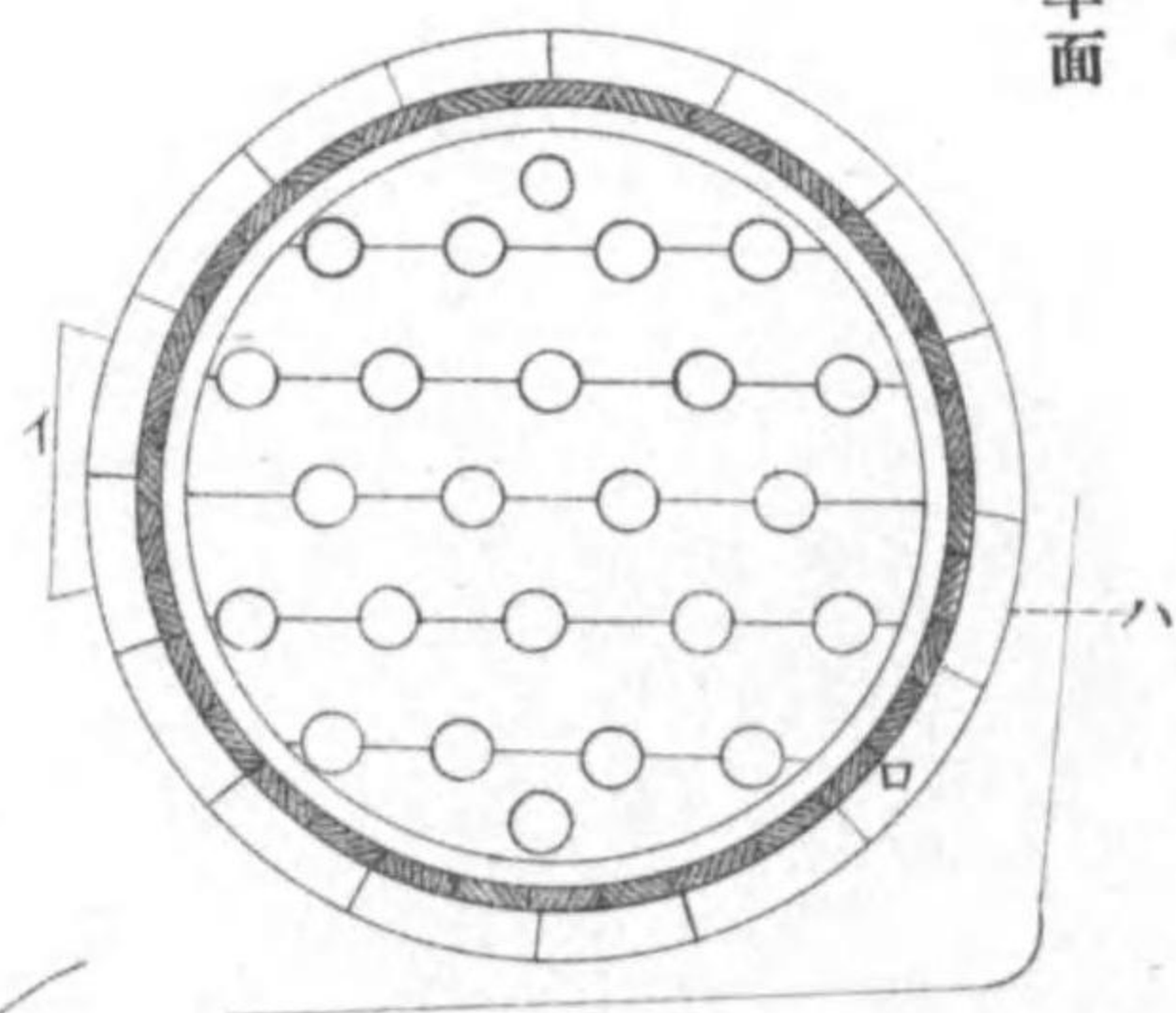
(一) 敷棧分離



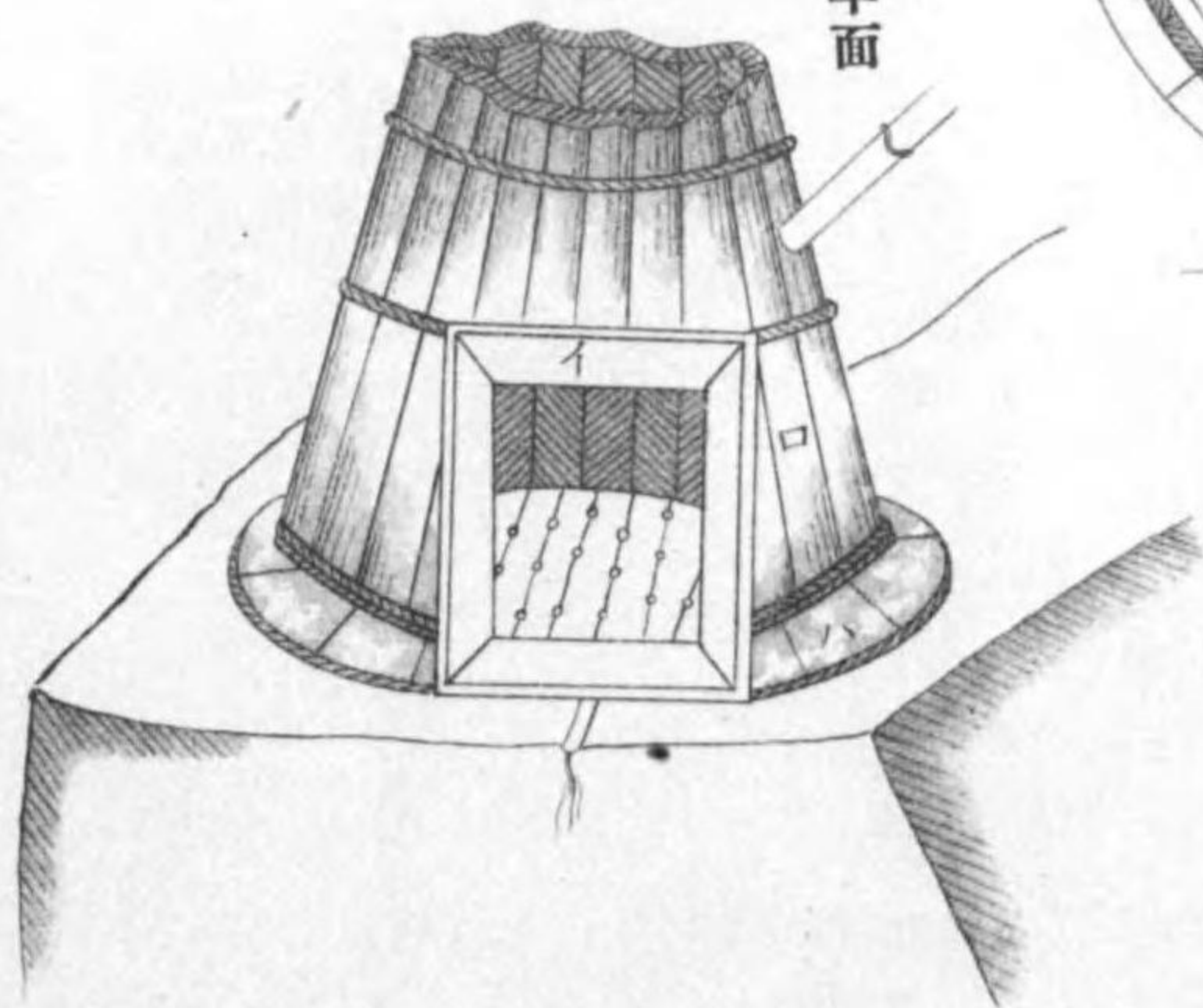
(二) 敷棧接合



(三) 敷棧配列ノ平面



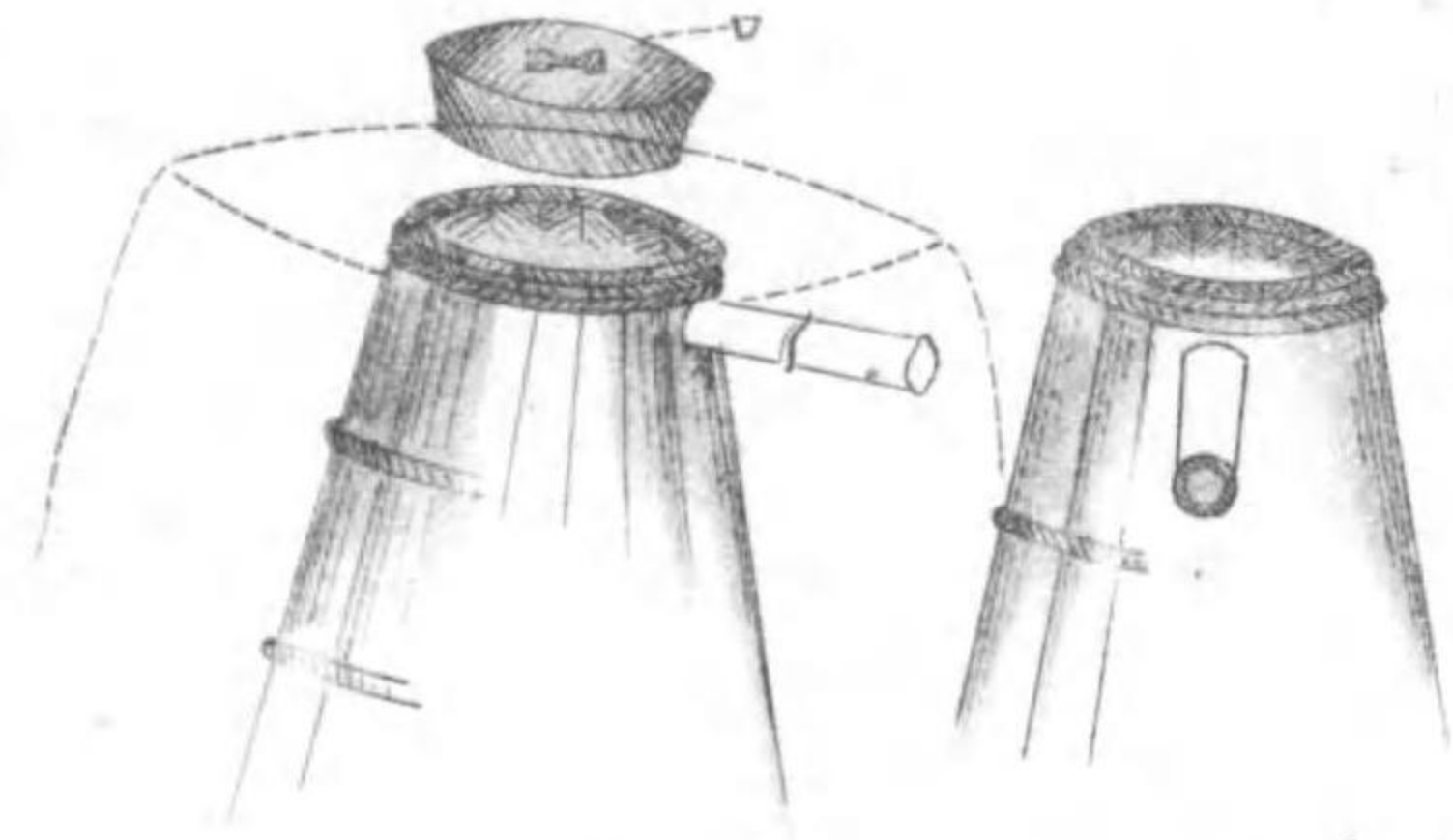
(四) 甕内敷棧配列ノ平面



(三)
(四)
イ 木片出口
ロ 甕
ハ 下須板

第五圖甌蓋及通筒取付圖

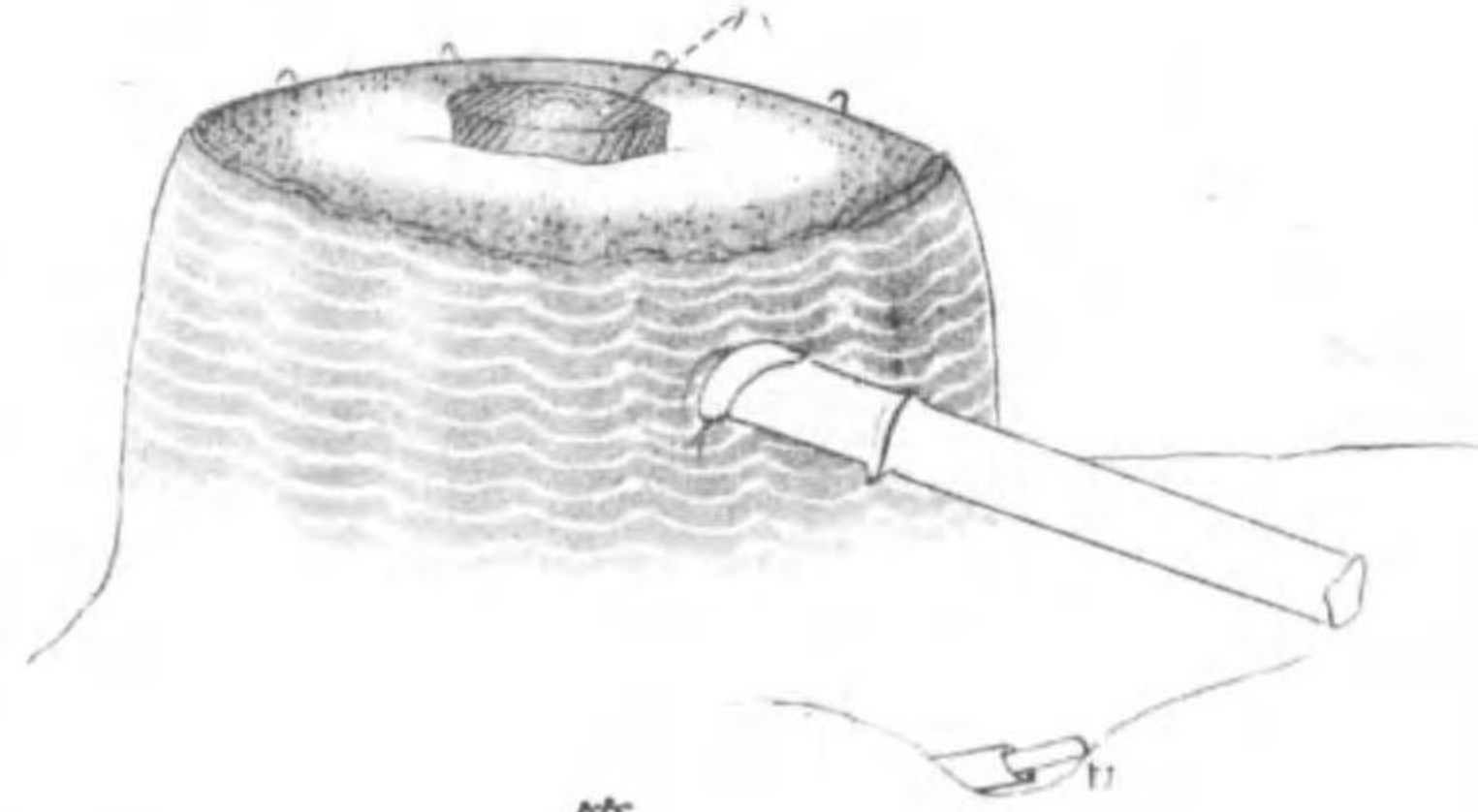
(甲) イ 通筒ノ繼目
ロ 添水筒
ハ 蓋



(甲) 甌及通筒連繫

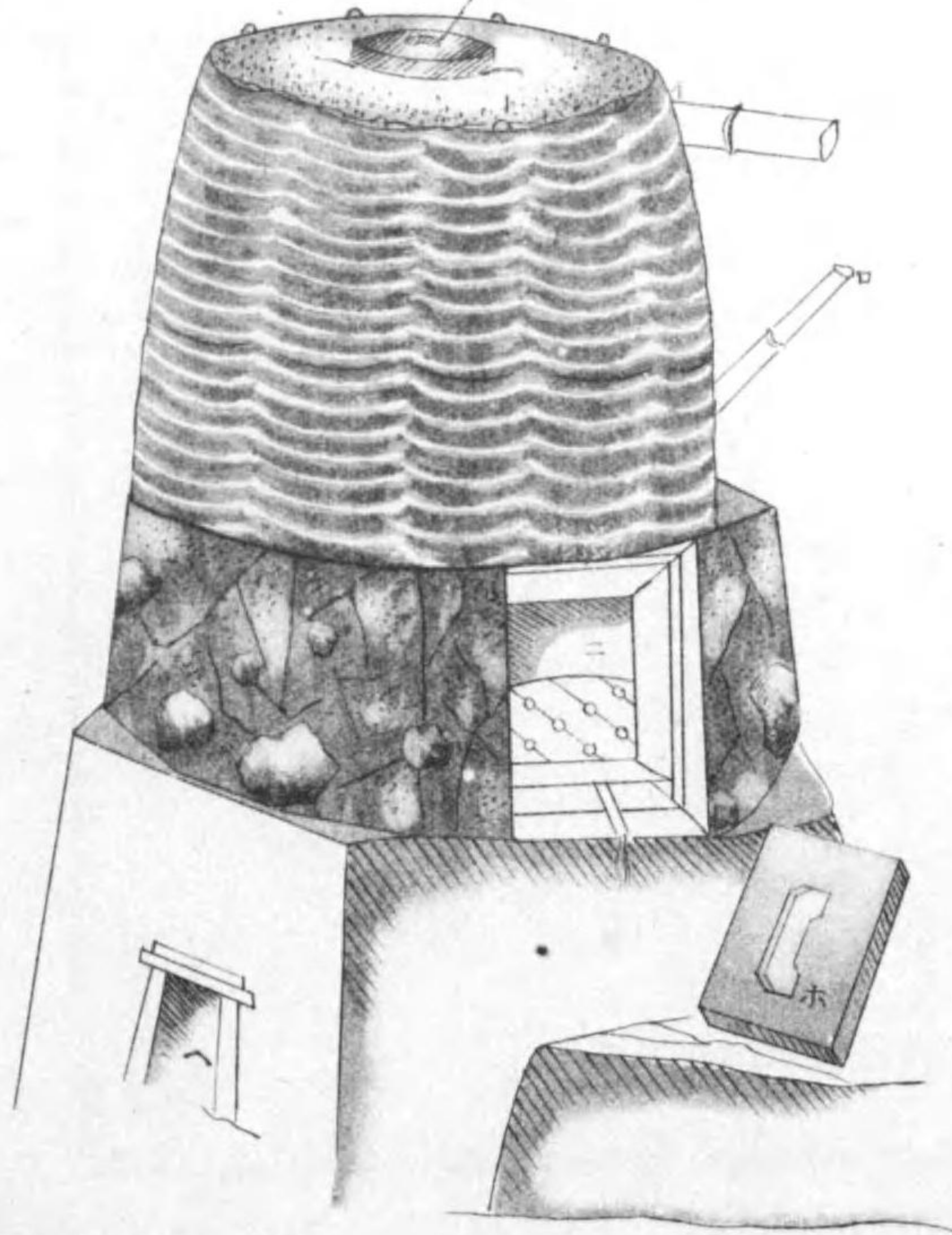
(乙) 内部ノ連繫

(乙) イ 通筒ノ繼目
ロ 蓋



第四圖甌外圍之構造 (側面)

イ 通筒ノ繼目
ロ 添水筒
ハ 蓋
ニ 木片出口
ホ 同上蓋
ヘ 焚火口
ト 粘土塗波處



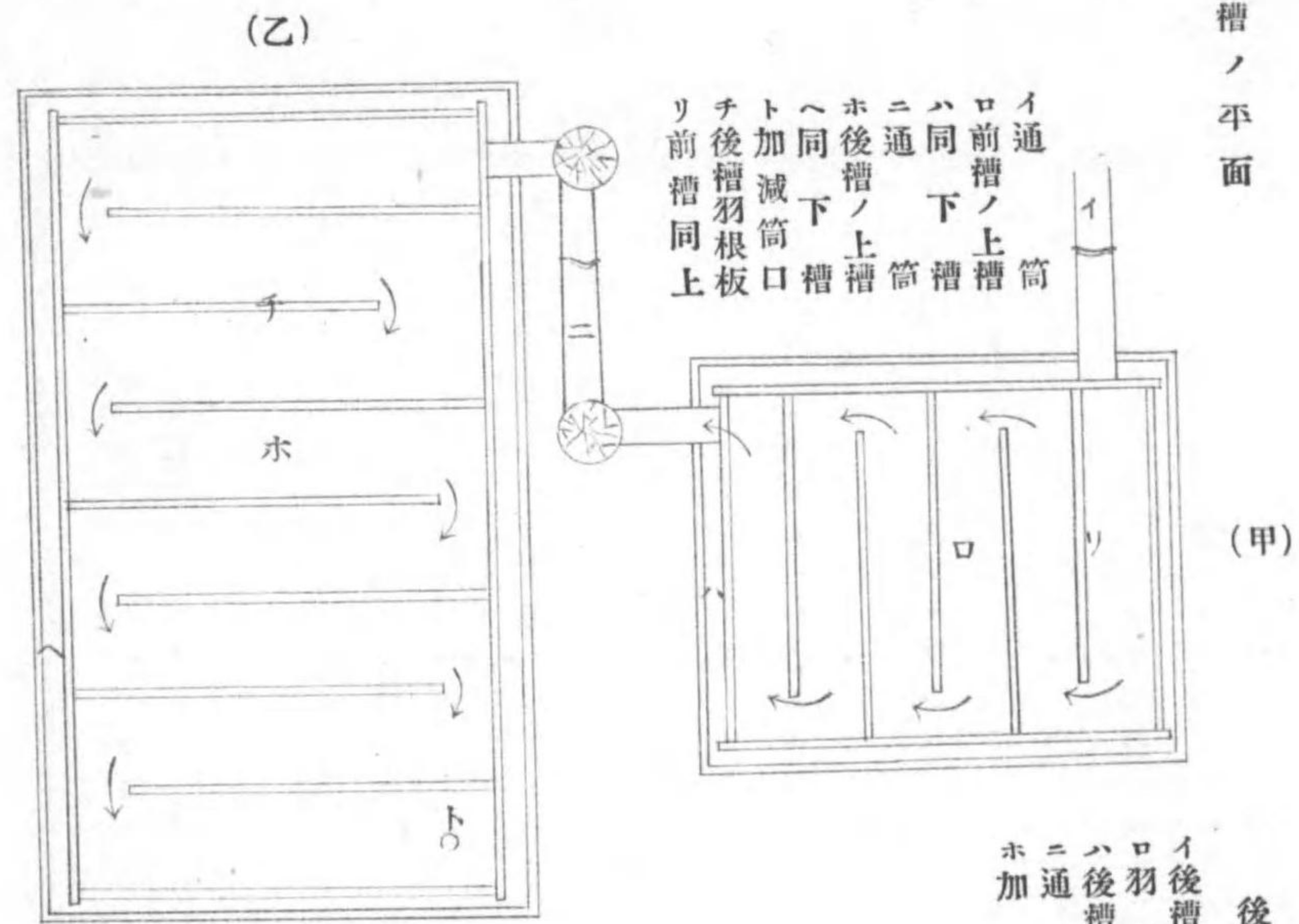
水槽ハ内地産杉材ヲ以テ造リ前槽後槽ノ二組ヨリ成リタルモノニシテ上記ニ於ケル通管ヨリ來ル所ノ蒸氣ヲ前槽ニ受ケ之ヲ後槽ニ導クノ裝置ニシテ前槽ハ甲圖ニ示スカ如ク甑ヨリ約一丈二尺ノ通管ヲ通シタル所ニ置キ後槽ハ乙圖ニ示スカ如ク前槽ヨリ凡三尺ノ通管ヲ以テ連絡シタル所ニアリテ其最終ノ一部ニ加減筒ヲ設ケ以テ檢溫器及安全器ノ用ヲ爲スノ裝置トス前槽ニ上槽下槽ノ二箇アリ其上槽ハ凡方二尺七寸垣板巾六寸厚八分中底板厚四分羽根板巾六寸厚六分ノモノ三枚附ニシテ中底ト水面トノ間五寸ナリ通俗此空間ヲ遊ヒト稱フ凡方三尺ニシテ板巾七寸厚六分ヲ用テ製作セシモノナリ

後槽ハ前槽ト同シク二箇ヨリ成ルモノニシテ其上槽ハ長五尺三寸巾二尺五寸垣板巾一尺二寸厚八分中底板厚四分羽根板巾六寸厚八分ノモノ七枚附ニシテ遊ヒノ間五寸ヲ有シ受水ノ溜リ即チ上槽一寸五分ハ水浸トス

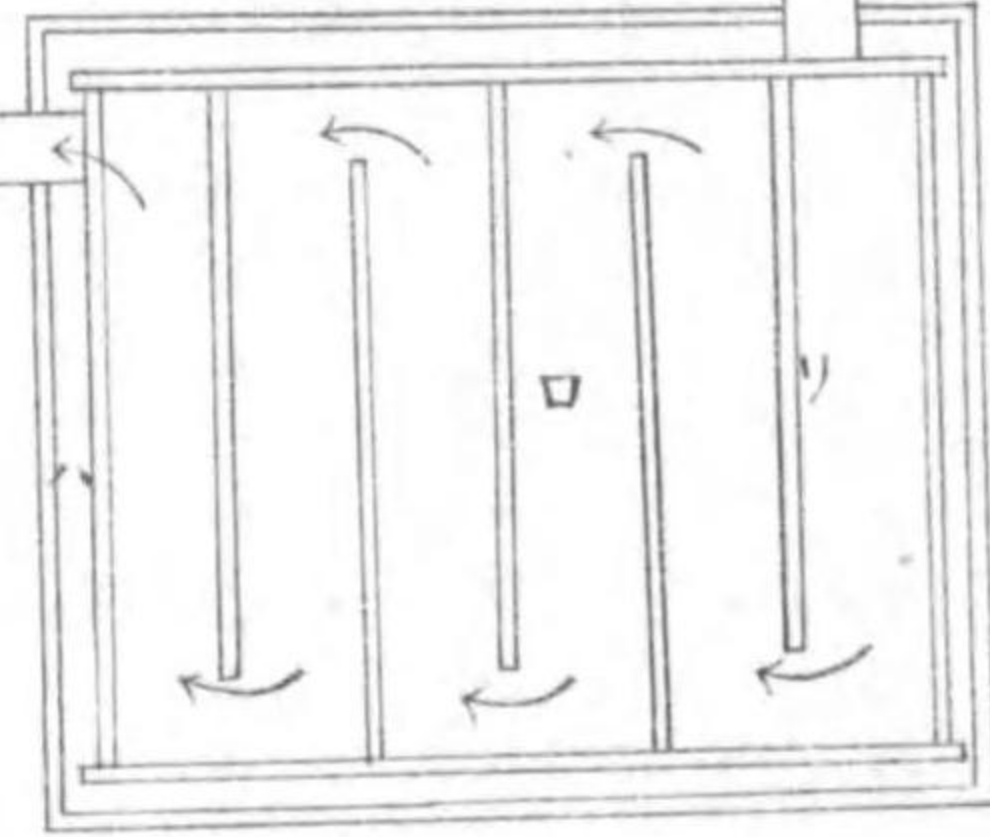
通管ハ甑中ノ蒸氣ヲ前槽後槽ニ送ル竹筒ニシテ其口徑ハ大凡一寸六七分トス

加減管ハ口徑六七分ナル小竹ヲ以テ作り灶中ニ於ケル火力ノ強弱ニ伴ヒ上槽溫度ノ如何ヲ檢シ且安全器ヲ兼用スル具トス

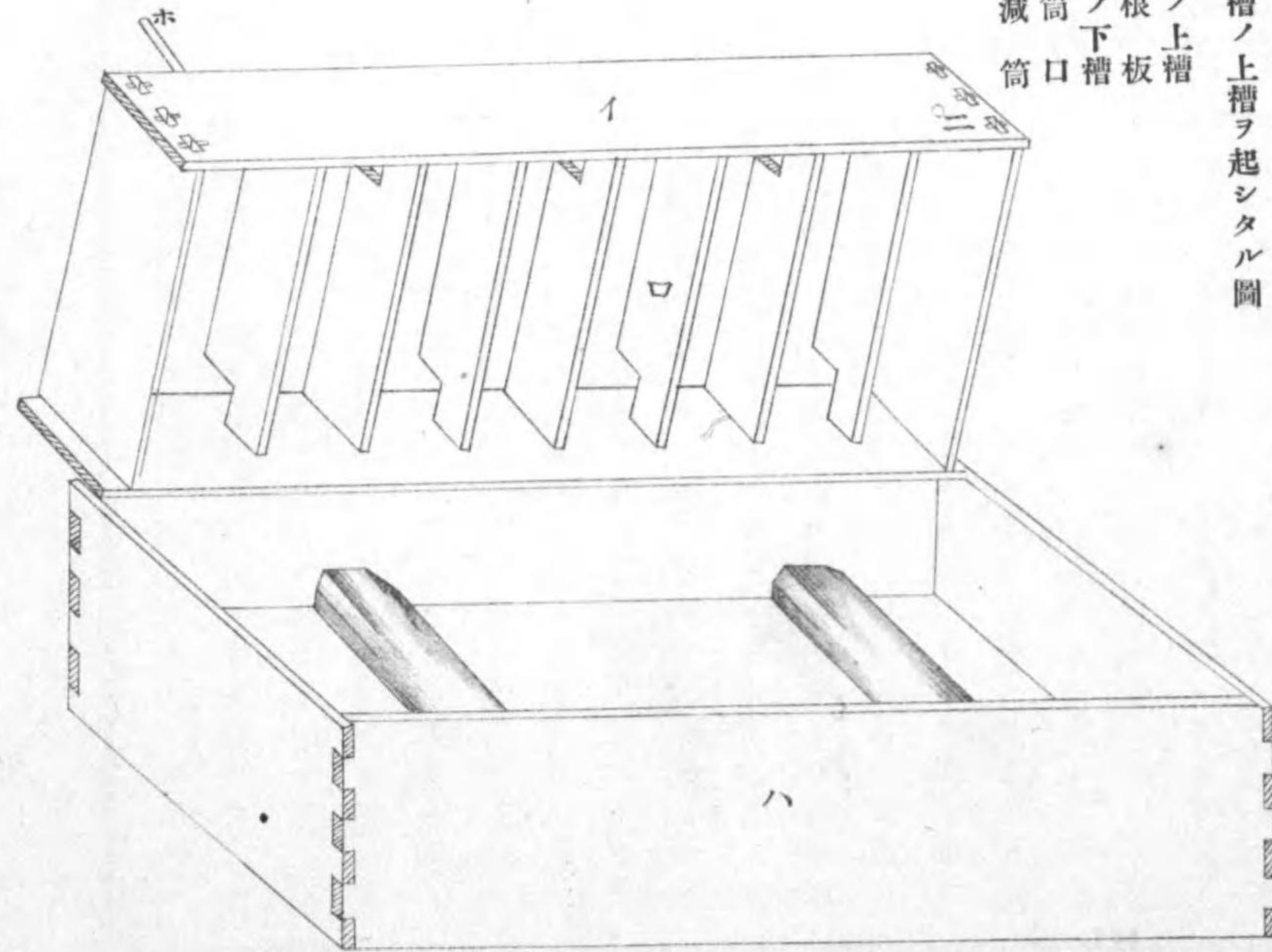
水槽ノ平面



(甲)



後槽ノ上槽ヲ起シタル圖



イ後槽ノ上槽
ロ羽根板
ハ後槽ノ下槽
ニ通筒口
ホ加減筒

粗製樟腦製造操作 樟樹ニ赤芽青芽黃樟等ノ區分アリ又別ニ臭樟ト稱フルモノアレトモ其腦分ヲ含ムコト極メテ少量ナルカ爲製腦者ハ之ヲ遺テテ顧ミサルモノナリ而シテ此赤青黃ノ中赤ニ最モ多量ノ腦分ヲ含ミ青黃之ニ次ク然レトモ其樹質ニヨリ青ニモ亦赤ニ勝リテ非常ニ多量ノ腦分ヲ含蓄スルモノアレハ一概ニ之ヲ論シ難シ總テ樟樹ハ其葉小ニシテ能ク日光ノ作用ヲ受ケ其綠色中ニ少ク黃色ヲ帶ヒタルモノノ根幹ハ最モ腦量ニ富ムモノナレハ製腦者ハ喜ンテ之ヲ撰フモノトス製腦者ノ樟樹ヲ檢スルヤ先ツ其含腦分ノ多寡ヲ檢シ製腦原料ニ供スヘキモノト認定シタルトキハ立樹ノ儘其根部ヨリ手斧ヲ入レ漸次樹心ニ侵入スルモノトス其削截スル所ノ小片ハ即チ製腦ノ原料ニシテ此手斧ヲ入ルルハ一方ニ原料削製トナリ一方ニ立樹ヲ倒スノ方法トナリテ一舉兩得ノ妙用ヲ備フルモノトス從來本島人ノ削截法ハ木理ニ從テ之ヲ縱斷セシモノナルカ斯ノ如クスルトキハ材質ノ分解少クシテ十分ニ腦質ヲ遊離セシムル能ハス故ニ羅東樟腦局ニ於テハ之ヲ內地式ノ斜削法ニ改メシメタリ此斜削ハ木理ノ縦面ニ向テ斜ニ斧ヲ入ルルカ爲其屑片ニ無數ノ割目ヲ生シ腦分ノ離脱ニ便益ヲ與フルカ爲ナリ此手斧入レハ恰モ蠶ノ桑葉ヲ食スルカ如ク一方ヨリ漸々材質ヲ侵蝕スルカ爲途ニ立樹ヲ倒スニ至ル而シテ普通ノ製腦業者ニ在テハ事情ノ許ス限リ此倒樹ヲ下ケ水ノ時季即チ冬期ニ於テ行ヒ其倒樹及根部ハ其儘トナシ置キ更ニ他ノ立樹ニ及ヒ夏期ニ至リテ始メテ其倒樹及根部ニヨリテ作業ヲ繼續スルモノトス幹部ハ樹長ノ約三分一以上三分二以內ノ部分ヲ使用シテ其他ヲ放棄シ數年ノ後其表皮及新層部分ノ腐蝕シテ樹心ヲ留ムルニ至リ更ニ之ヲ拾ヒ取リテ原料ニ供シ根部ハ力ノ及フ限リノ部分ヲ掘出シテ之ヲ使用スル

ヲ例トスルモ吠哩沙試製所ニ於テハ之ヲ嚴重ニ取締一木ノ殆ト全部ヲ採取シ盡シテ後他ノ一木ニ及フコトトシ力メテ原料放棄ノ弊習矯正ヲ爲シタリ
 此樟木ノ細片ナル原料ハ之ヲ上圖ノ甌内ニ納ム其分量ハ一甌ニ付約三百斤ヨリ三百五十斤マテニシテ之ヲ詰メ終ルヤ甌下ノ鐵鍋ニ適度ノ水ヲ滿タシ灶中ノ燃料ニ火ヲ點シテ焚熬ニ從事スルモノトス今其操作ノ順序ヲ左ニ列記スヘシ

甌丁ハ毎朝起床スルヤ直ニ甌灶ノ焚火ヲ檢視シテ其燃料ヲ添ヘ更ニ水槽ヲ點檢シテ火力ノ持續及適否ヲ計リ然シテ後原料削採ニ從事ス正午ニ至レハ其削採セル原料ヲ背負歸リテ焚火ノ加減ヲ計リ午後モ亦同様ノ作業ヲ爲シ午後六時前後ニ於テ甌中ノ原料詰替ヲ爲ス此詰替ハ二十四時間毎ニ之ヲ行フモノナレハ本日ノ詰替ニ當リ甌内ヨリ搔キ出セル木片ハ前日ノ午後六時ニ仕込ミタルモノナリ往時ノ製腦者ハ徒ニ其得量ノ多カラシコトヲ貪リ十二時間ヲ隔テテ之カ詰替ヲナセシモノアリシモ是レ猶腦分ヲ含有シタル原料ヲ遺棄スルモノナルカ故ニ二十四時間ニ改メシメタルナリ而シテ甌丁等カ最モ注意スヘキハ蒸發氣ノ加減ヲ計リテ一定ノ程度ニ火力ヲ保タシムルニアリ故ニ起床ノ際及正午午後ノ原料詰替前ニ於テ幾度カ火力ヲ加減シ夜ニ入り甌丁ノ就床ニ至ルマテ絶ヘス灶前ニ於テ火力ノ加減ヲ計ルモノナリ此火力ノ加減ハ槽中ニ結晶セル樟腦ヲ蒸散セシメ又ハ不良ノ性質トナサシムルモノナルカ故ニ甌丁等カ最モ緻密ノ注意ヲ要スルモノナリ

溪水ノ引用 甌中ノ蒸發氣ヲ冷却結晶セシムル爲山間ノ溪水ニ甌ヲ通シ水槽中ニ引入ス此甌中ニハ常ニ落葉其他塵芥ノ之ニ入りテ流水ヲ防阻スルコトアルヲ以テ甌丁ハ之ヲ掃

除センカ爲常ニ其現場ヲ巡見シ流水ヲシテ停滯スルコト勿ラシム此流水ノ遲速ハ槽水ニ於ケル滯流ノ新陳代謝ニ關シ隨テ槽中ノ熱度ニ影響スルヲ以テ樟腦ノ結晶ニ著大ノ關係ヲ及ホスモノトス若シ夫レ篋水ノ掃除ヲ怠リ槽中ノ水ニ交替ナカラシムルトキハ其水忽チ温湯トナリ甌ニ樟腦ノ結晶ヲ疎ナラシムルノミナラス既ニ結晶セル樟腦ヲモ溶融シ遂ニ加減筒ヨリ蒸散セシムルニ至ルモノリ

製腦順序 一甌灶ニハ甌丁一人(本島人ハ二人)ヲ附シテ作業セシム今其順序ヲ述フレハ鍋中ノ水ノ漸ク沸騰スルニ隨ヒ甌中ノ樟片熱氣ノ爲ニ腦分ヲ分解セラレ蒸發氣トナリテ發散シ通管ヲ潜リテ前槽ノ一端ヨリ羽根板ノ間隙ニ傳ハリ迂回シテ更ニ前後槽ヲ連絡スル所ノ通管ヲ潜リテ後槽ニ入り羽根板ノ間隙ヲ迂回シテ最終ノ一端ナル加減筒ニ出ツルモノニシテ其蒸發氣ノ前後槽中ノ羽根板間ヲ迂回スル間ニ於テ上下槽ノ冷氣ニ觸レテ結晶ヲ爲スモノナリ其結晶體ハ羽根板等ニ附著スルモノアリト雖多クハ下槽ノ水中ニ油分ト共ニ浮游シ居ルモノニシテ恰モ積雪ノ水中ニ浮ヒタルト同一ノ觀アルモノトス是即チ粗製樟腦ナリ而シテ之カ焚込ハ一晝夜毎ニ一回原料ノ詰替ヲナシ之ヲ代フルコト十回若ハ十五回ニシテ初メテ槽揚ヲナスモノニテ此槽揚即チ樟腦採集ハ一箇月二回若ハ三回日ヲ刻シテ之ヲ行フモノナリ其法ハ槽揚ノ前日夕刻ニ先ツ甌ト水槽トノ通路ヲ斷チ平常ヨリモ上槽ニ多量ノ水ヲ灌キテ冷却セシメ而シテ後上槽ヲ起シ其内部羽根板ノ間ニ結晶附著セル樟腦及下槽ノ水面ニ浮游セル腦塊ヲ採集ス其法最初手ヲ以テ水面ノ樟腦ヲ掬ヒ取リ爾後麻布ヲ以テ樟腦ノ小片ト共ニ水面ニ游離セル腦油ヲ漉取シテ之ヲ滴桶ニ移シ滴場ニ

運ヒ桶口ヲ倒ニシテ二晝夜間之ヲ放置シ腦油及水分ヲ滴下シ初メテ良質ノ樟腦ヲ得ルモノナリ然ルニ俗ニ熱揚ト稱スル採取方アリ是ハ水槽ヲ冷却セシメスシテ直ニ槽中ノ樟腦ヲ採取スルモノニテ斯ノ如クスルトキハ其結晶ノ十分ナラサルカ爲油水分ヲ含蓄シタル儘容易ニ分離セス是レ腦丁等カ徒ニ其斤量ノ多カラシムコトヲ欲シテ一時ヲ糊塗スルモノナレトモ其腦質ヲシテ疎悪ナラシメ灶主等ニ損害ヲ與フルコト甚ナカラス故ニ其監督ノ任ニ當ルモノハ其槽揚ニ於テ常ニ注意ヲ怠ラサルモノナリ

腦丁備入 腦丁若シ其適當ノモノヲ得サレハ如何ニ腦寮完全ニシテ原料豊富ナルモ精良ノ樟腦ヲ得ルコト能ハス故ニ腦丁ノ備入ハ殊ニ留意スヘキモノナリ叭哩沙試製所ノ腦丁ニハ製腦產出高ニヨリ樟腦百斤ニ付十六圓樟腦油百斤ニ付八圓ノ割ヲ以テ其賃金ヲ仕拂フ是レ製腦ハ元來蕃地ノ事業ニシテ勤怠ヲ詳細ニ調査スルノ便利ヲ缺ケルヲ以テ日給支拂ノ方法ニ據ラスシテ出來高報酬ノ方法ヲ採リタルモノトス故ニ其備入ノ初ニ當リ解備ノ時期槽揚運搬水油分ノ分離等ニ對シテハ總テ官ノ命令ニ從ヒ異議ナキヲ誓ハシメ之ヲ採用スルモノトス然レトモ本島人腦丁ハ内地人腦丁ト異リ規律ヲ守ルノ觀念甚ナク其日稼ノ苦力的勞働者ナルカ故ニ朝ニ甲者タリシモ夕ニ乙者ト變シテ平然其勞役ニ服シ居リ言語ノ通セサルカ爲其賃金ノ仕拂等ニ際シ往々混雜ヲ招キシコトアリ故ニ一灶ニ對スル腦丁ハ平均二人ヲ附シ先ツ灶數ニ對スル頭數ヲ調ヘテ日々休數ナカラシメ且組長ヲシテ作業及焚上賃ノ支給其他彼等ニ係ル一切ノ事端ヲ處理セシメ官廳ニ於ケル總テノ命令モ組長ニ命シテ傳達セシムルコトトシ大ニ彼我ノ事情ヲ通シ製腦上ノ進捗ヲナスニ至レリ

粗製樟腦生產高 三十二年度各腦區ニ於ケル粗製樟腦生產高及年度末現在灶數左表ノ如シ

腦寮區別	年度末現在灶數	生産			計
		上等	中等	下等	
月眉一區	三〇	一八、一七一〇			一八、一七一〇
同 二區	二〇	二、七〇六、〇			二、七〇六、〇
柑仔坑一區	二〇	八、二一三、五			八、二一三、五
同 二區	二〇	一一、六二二、〇			一一、六二二、〇
同 三區	三〇	一三、四〇三、〇			一三、四〇三、〇
計	一二〇	五四、一五、五			五四、一五、五

樟腦油生產高 三十二年度ニ於ケル腦區別樟腦油年計左表ノ如シ

品名	副産			高産			計
	月眉一區	月眉二區	柑仔坑一區	柑仔坑二區	柑仔坑三區		
樟腦油	九四一七斤	一、二九六斤	四、二八五斤	五、九八〇斤	七、二八二斤		二八、三六一斤

前記樟腦及樟腦油ノ生産高ニヨリ腦丁一人一日ニ對スル平均製造高ヲ掲クレハ左ノ如シ

延人員	製造高			腦丁一日平均製造高
	樟腦	腦油	樟腦油	
二六、五四五	五四、一五、五	二八、三六一	二、〇四	一、〇七

製腦費ニ對スル腦丁ノ所得 三十二年度中三十二年八月以降腦丁作業ノ日數ニ對シ製腦費及腦丁ノ所得左表ノ如シ

腦寮別	作業月數	焚		上		計		腦丁人員		一人一箇月平均所得		
		樟	腦	樟	腦	計	計	樟	腦	計	計	
月眉一區	八	二九〇七三〇	四	七五三三六〇	四	三六〇七二〇	一八七	一五八四〇	四	四〇八五	四	一九九二五
同二區	二	四三二九六〇		一一六八〇		五四四六四〇	七二	二二〇二六		三二〇二		一五二二八
柑仔坑一區	六	一三二四一六〇		三四二八四〇		一、六五七〇〇〇	六二	一九〇六七		四八八二		二二九五〇
同二區	五	一八五九五二〇		四七八四〇〇		二、三三三九二〇	一三七	一三五七九		三三三八		一七一七
同三區	五	二、四四四八〇		五八五八〇〇		二、七三〇二〇〇	二三七	九三三七五		二五七二		一九四七
計	二六	八、六五八四八〇		二、七二二〇八〇		一〇、九三〇五六〇	六九五	六九八八七		一八二八〇		八八〇六七

腦丁月末人員及延人員 三十二年度製腦ニ要シタル腦丁月末人員及延人員左表ノ如シ

月	別	腦丁別	月末人員	延人員	總人員計
十月	月	內	二八	三〇	五八
九月	月	內	二七	二九	五六
八月	月	內	二六	二八	五四
七月	月	內	二五	二七	五二
計			一一三	一二〇	二三三

區別	上	中	下	計	樟腦油
臺北文山堡試製所	八六、〇二五〇	四一、三〇〇〇	六、一四〇	一三三、四四〇	八五、九四八〇
新竹上坪試製所		三三、〇〇〇		三三、〇〇〇	二二、五〇〇
羅東叭哩沙試製所	五四、一五〇		六、一四〇	一八七、九二五	二八、七四〇
計	一、四〇、一四〇	四一、三〇〇	六、一四〇	一、八七、九二五	一一四、九三三

第六節 粗製樟腦及樟腦油試製高

明治三十二年度中各試製所ニ於ケル粗製樟腦及樟腦油ノ產出高左表ノ如シ

區別	上	中	下	計	樟腦油
臺北文山堡試製所	八六、〇二五〇	四一、三〇〇〇	六、一四〇	一三三、四四〇	八五、九四八〇
新竹上坪試製所		三三、〇〇〇		三三、〇〇〇	二二、五〇〇
羅東叭哩沙試製所	五四、一五〇		六、一四〇	一八七、九二五	二八、七四〇
計	一、四〇、一四〇	四一、三〇〇	六、一四〇	一、八七、九二五	一一四、九三三

第五章 收納

第一節 粗製樟腦及樟腦油買收

樟腦及樟腦油賠償金 樟腦及樟腦油ノ賠償金額ハ製腦原價前數年間ニ於ケル本島内各集散地ノ時價及運輸交通ノ便否等ヲ參酌シテ定メラレタルモノニシテ臺灣樟腦及樟腦油專賣規則第三條ニ依リ明治三十二年六月二十二日ヲ以テ左ノ如ク告示セラレタリ

局名	樟腦賠償金 (百斤ニ付)			樟腦油賠償金 (百斤ニ付)
	上等	中等	下等	
臺北樟腦局	三〇,〇〇〇	二七,〇〇〇	二四,〇〇〇	一五,〇〇〇
新竹樟腦局	二九,〇〇〇	二六,一〇〇	二三,五〇〇	一四,〇〇〇
苗栗樟腦局	二七,〇〇〇	二四,八〇〇	二二,三〇〇	一三,八〇〇
臺中樟腦局	二六,〇〇〇	二三,四〇〇	二一,一〇〇	一三,〇〇〇
林圯埔樟腦局	二二,〇〇〇	一九,八〇〇	一七,八〇〇	一一,〇〇〇
羅東樟腦局	二七,五〇〇	二四,八〇〇	二二,三〇〇	一三,八〇〇

樟腦及樟腦油ノ收納標準額 明治三十二年政府ニ於テ收納スヘキ樟腦及樟腦油ノ數量ハ生産ノ狀況ト賣行ノ模様トヲ參酌シテ之ヲ決定セシモノニテ之カ製造ニ供スヘキ腦灶數及

樟木ノ本數材積概數ト共ニ左表ノ如ク決定シ關係地方官ニ通達シ同時ニ各樟腦局ハ内牒シテ成ルヘク此定額ニ近カラシメンコトヲ期セラレタリ

廳名	局名	樟腦產額	樟腦油產額	樟木本數	同材積	製腦灶數
臺北縣	臺北	六四,四〇〇	三三,一〇〇	二,八六五	四,一九八	九,〇〇〇
臺北縣	新竹	三〇,七〇〇	二五,〇〇〇	二,二一九	三,三三三	七,一〇〇
	苗栗	三〇,一四九	二五,〇〇〇	二,二一九	三,三三三	七,一〇〇
	臺中	三三,四三六	二七,七〇〇	一,四八六	二,一八八	四,七〇〇
	林圯埔	一〇,三七三	五,八五七	四六一	六,九一四	一,四〇〇
宜蘭廳	羅東	一八,〇〇〇	六,〇〇〇	八〇〇	一,〇〇〇	一,一〇〇
合計		一五九,五三六	一〇一,五七七	一〇,一八四	一五,一七三	三三,六三九

收納及鑑定事務 樟腦及樟腦油ハ其製造人ヨリ政府ニ收納シ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スルノ規定ニシテ之ニ伴フ諸般ノ法規ハ既ニ整備セリ而シテ其處務ノ如キモ一定ノ取扱ニ出ツルノ必要アルヲ以テ明治三十二年七月二十四日收納鑑定等ノ事務要項ヲ左ノ如ク定メラレタリ

收納

一 製造人樟腦及樟腦油ノ收納ヲ申出タルトキハ辨務署ノ證明又ハ正當ノ製造人タル證據ヲ認メタル上職務主任及會計主任ハ各一人ノ掛員ヲ立會ハシメ鑑定主任ニ命シ其品質

- ヲ鑑定セシムルコト
- 一 鑑定上異状ナキモノハ會計主任立按シ之ニ鑑定書ヲ付シ職務主任ニ會議シ收納ノ決裁ヲ經ルコト
 - 一 前項ノ決裁ニ依リ會計主任ハ賠償金支出並物品保管ノ手續ヲ爲スコト
 - 一 過當ノ水分ヲ含メル樟腦及樟腦油ハ納付者ヲシテ相當ノ調理ヲ施サシメタル上收納ノ手續ヲ爲スコト
 - 一 鑑定上他物ヲ混交シタルモノト認ムルトキハ專賣規則第十一條ニ據リ處分ノ手續ヲ爲スコト
 - 一 賠償金ハ可成收納當日ニ於テ拂渡ノ手續ヲ爲スコト
 - 一 樟腦及樟腦油ヲ保管スルニハ倉庫ニ上中下ノ三區劃ヲ設ケ甲乙混交セシメサルハ勿論火氣風雨ノ災害ヲ嚴戒スルコト
 - 一 製造人代理人ヲシテ事件ヲ處辨セシムルトキハ總テ正當ノ委任狀ヲ徵スルコト
- 鑑定
- 一 鑑定主任ハ公平無私數量及品質ノ誤認ナキヲ期スルコト
 - 一 鑑定主任ハ職務主任會計主任若ハ検査官吏立會ノ上鑑定シ立會ナキ鑑定ハ無効ナルコト
 - 一 鑑定主任ハ納付者ニ對シ直ニ其品質鑑定ノ結果ヲ示スコトヲ得ス
 - 一 鑑定主任ハ鑑定ヲ終リタルトキハ別紙書式省略ノ鑑定書ヲ作り立會員ト共ニ署名捺印

スルコト

一 鑑定主任ハ局長ノ許可ナクシテ樟腦及樟腦油ノ鑑定依頼ニ應スルコトヲ得ス

一 鑑定上ニ就キ立會人ト鑑定主任ノ間互ニ意見ヲ異ニスルトキハ局長ノ指揮ヲ請ヒ私見ヲ主張スヘカラサルコト

專賣制施行前ニ於テ樟腦ニ石花菜湯植物粘液澱粉性粘液石膏等ヲ混入シ樟腦油ニ臭油ト稱スル植物性油ヲ混入シテ其量目ヲ増シ之ヲ買フ者モ亦秤器ヲ詐リテ其量目ヲ減スル等ノ事常ニ行ハレ相互ノ間ニ譎詐ノ行爲アリシコトハ心アル者ヲシテ常ニ嘔吐ヲ催サシムルモノナリシモ專賣制施行以後ハ各樟腦局ニ於テ最モ嚴正ニ收納及鑑定ヲ行ヒタルヲ以テ這般ノ惡弊ハ茲ニ之ヲ除去スルコトヲ得タリ

明治三十二年八月五日ヨリ同三十三年三月末日迄各樟腦局ニ於テ取扱タル樟腦及樟腦油ノ收納出願件數左ノ如シ

局別	樟腦	樟腦油	計
臺北樟腦局	三七一	三四九	七二〇
新竹樟腦局	二二〇	二二二	四四二
苗栗樟腦局	二三七	二二七	四六四
臺中樟腦局	二一三	一七八	三九一
林圯埔樟腦局	三七一	三四九	七二〇

計 一、四二二 一、三二五 一、七三七

粗製樟腦收納額ト豫定額 明治三十二年度ニ於ケル政府ノ粗製樟腦買收豫定額ニ對スル實
收納額ノ過不足ヲ比較シテ之ヲ局別ニ示ストキハ左表ノ如シ

局別	收納豫定額	實收納額	過不足額
臺北樟腦局	九一三、七九四	七五一、一六六、三	一六二、六二七、七
新竹樟腦局	二八〇、〇一一	一七一、七九八、〇	一〇八、二一三、〇
苗栗樟腦局	五五一、二八六	四六八、七八五、〇	八二、五〇一、〇
臺中樟腦局	二一〇、一五九	三〇四、五三一、〇	九四、三七二、〇
林圯埔樟腦局	一三五、二五二	八四、三〇五、〇	五〇、九四七、〇
羅東樟腦局	七七、四九一	五四、一五、五	二二、三三五、五
計	二、一六七、九九三	一、八三四、七〇、八	三三三、二九二、二

(備考) 實收納額ニハ官行試製ノ數量ヲ含ム

樟腦及樟腦油收納 明治三十二年八月ヨリ同三十三年三月迄各樟腦局ニ於テ買收シタル等
別粗製樟腦及樟腦油ノ數量並其賠償金額ハ下記ニ表ノ如シ

粗製樟腦收納高局別表

局別	上等		中等		下等		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
臺北樟腦局	五〇一、五四二	一五〇、七六二、六〇〇	九七、六七七、三	二六、三七二、八七一	一七、五〇二、〇	四、二五二、七八五	六二七、七二二、三	一八、一三八、八二五六
新竹樟腦局	九五、六二九	二七、七三三、四一〇	五二、三三四、八	一三、六六二、八二八	三三、四六九、〇	五、五二五、二一五	一七、四四六、〇	四六、九一〇、四三三
苗栗樟腦局	一一八、七五三	三三、六五七、〇七五	三〇、八六一、〇	七、五三三、二八〇	四、四三三、〇	九、二三七、一〇六	四六、八七八、五〇	一一八、四二九、四六一
臺中樟腦局	一五三、五二九	三九、九七五、四四〇	一三三、二二一、〇	三、六三九、三三四	一五、七九一、〇	三、三三一、九〇一	三〇、四、五三、〇	七四、八八八、八一五
林圯埔樟腦局	七二、五九〇	一五、九六九、八〇〇	八、八九九、八五	一、七六一、九〇三	二、八一六、五	五〇、一三三、七	八、四三〇、五〇	一八、一三三、〇四〇
計	九四三、〇四三	二、六七〇、三九四、五	六〇二、七四四、八	一四九、九七二、二六六	一〇〇、一〇〇、五	二、二八三、八三四、四	一、六四六、七八八、三	四、三九、八五〇、〇二五

樟腦油收納高局別表

局別	數量	金額
臺北樟腦局	二四二、九〇一、五	三六、四三五、二二五
新竹樟腦局	一九九、六四三、〇	二八、九四八、二三五
苗栗樟腦局	四八一、七四九、〇	六六、四八一、三六二
臺中樟腦局	二六九、八五九、〇	三五、〇八一、六七〇
林圯埔樟腦局	五〇、九一七、〇	五、六〇〇、八七〇
計	一、二四五、〇六九、五	一七二、五四七、三六二

第二節 荷造運搬

荷造 各樟腦局ニ於テ收納若ハ製造シタル樟腦ハ悉ク之ヲ臺北樟腦局ニ送付シ其樟腦油ハ各樟腦局ニ於テ買受人ニ引渡スモノトス故ニ其樟腦ノ運送容器ハ硬麻布製ノ袋ヲ使用スルコトニ定メタリ袋ハ大小二種ニ分チ大囊ハ百斤入小囊ハ五十斤入トス樟腦ヲ此袋ニ入レ麻繩ヲ以テ囊口ヲ括リ局名ノ頭字及品質ノ等級ヲ烙印シタル目標ヲ各箇ニ附ス樟腦油ハ石油空罐一箇ニ二十九斤ヲ入レ官字ヲ印セル罐口ヲ密封シ二罐即チ五十八斤ヲ石油空箱一箇ニ納メ其外面ニ左記第四號ノ記標ヲ附ス

臺北樟腦局ニ於テ樟腦買受人ニ引渡ス甲種樟腦ハ左記第一號ノ記標ヲ附シテ十斤塊ニ壓搾シ蠟引紙及上包紙ヲ以テ二重ニ包裝シタルモノ十箇ヲ亞鉛板ヲ以テ製シタル内箱ニ容レ鉛蠟ヲ以テ密封シ尙之ヲ木製箱ニ納メ箱ノ兩端ニ鐵帶ヲ施シ外面ニハ左記第二號ノ記標ヲ附ス

又其乙種樟腦ハ蠟引紙ヲ敷キタル百斤入亞鉛板内箱ニ詰メ更ニ之ヲ木製箱ニ容レ其兩端ニ鐵帶ヲ施シ外面ニ左記第三號ノ記標ヲ附ス

第一號

(表面)



(裏面)



第二號

(側面)

CRUDE CAMPHOR
PRESSED



FORMOSA GOVERNMENT.

(前面)

樟 腦
臺 灣 樟 腦 局

第四號
(側面)

CAMPHOR-OIL
FORMOSA GOVERNMENT.

(前面)
樟腦油
臺灣樟腦局

第三號
(側面)

CRUDE CAMPHOR

FORMOSA GOVERNMENT.

(前面)
樟腦
臺灣樟腦局

運搬 各樟腦局ヨリ臺北樟腦局ニ送付スル樟腦ノ運搬ハ確實ニシテ斯業ノ經驗ニ富メル者二人(一人ハ内地人一人ハ本島人)ヲ撰拔シテ之カ請負ヲ命令シタリ而シテ明治三十二年十月三十一日樟腦運搬ニ關スル規定ヲ設ケテ之ヲ訓令セリ即チ各樟腦局ニ於テ收納若ハ製造シタル樟腦ヲ搬出セントスルトキハ運搬人ニ通知シテ現品ヲ交付スルト同時ニ遞送書類及運搬券ヲ作り各其原符ハ之ヲ自局ニ止メテ保管證用紙及運搬券ヲ運搬人ニ交付シ到著通知書用紙ノ連續セル送出通知書ヲ臺北樟腦局ニ送付ス運搬人ハ送元局ヨリ受ケタル用紙ヲ以テ保管證ヲ作りテ之ヲ當該局ニ差出シ現品ハ運搬券ト共ニ臺北樟腦局ニ運送ス臺北樟腦局ハ現品ヲ運搬券ニ照シテ受入レ同時ニ送出通知書ト共ニ送來リタル用紙ヲ以テ到著通知書ニ通ヲ作り其一通ヲ送元局ヘ他ノ一通ヲ民政部殖産課ヘ送達スルモノトス

樟腦運搬ニ對スル請負命合期限ハ明治三十二年八月ヨリ翌三十三年三月迄トシ各樟腦局ヨリ臺北樟腦局ニ運搬スル貨銀ハ樟腦百斤ニ付左ノ割合ヲ以テ支給シ義務履行ノ擔保トシテ金額三千圓以上ヲ豫納セシムルコトナレリ

新竹	臺北間	八十五錢
苗栗	臺北間	一圓九十錢
臺中	臺北間	三圓五十錢
羅東(叭哩沙倉庫)	臺北間	二圓

運搬通路繼立場竝運搬途中樟腦ノ保管方法ハ其安全ヲ保ツニ於テ大關係ヲ有スルモノニ付明治三十二年九月十八日請負人ノ申請ニヨリ臺中臺北間ハ海陸兩通路ト定メ其海路ヨリス

ルトキハ塗葛窟ニテ船積臺北大稻埕ニテ陸揚ヲナシ其陸路ヨリスルトキハ葫蘆墩三叉河苗栗頭份新竹淡水橋停車場ヲ經テ臺北大稻埕若ハ南門外ニ至リ又苗栗臺北新竹臺北間ハ其陸路臺中ヨリスルトキハ同ナク只其苗栗ヨリ海路ヲ取ルモノハ公司蔡ニテ船積ヲナスコトトシ又羅東臺北間ハ蘇澳ニテ船積基隆ニ陸揚臺北迄汽車便ニ依ルコトトナリ途中繼立場ハ塗葛窟後埔臺北大稻埕蘇澳基隆葫蘆墩三叉河苗栗頭份新竹新車蘇澳基隆羅東ヲ除クノ外他ノ名以上ノ宰領者ヲシテ人夫ヲ監督シ塗葛窟苗栗後埔新竹新車蘇澳基隆羅東ヲ除クノ外他ノ場所ニ滯泊セシムルヲ許サス右ノ各所ニ滯泊ノ場合ハ請負者ノ支店出張所代理店ノ倉庫ニ保管シ不寢番ヲ附シテ保護セシムルコトナレリ又本島人ニ對スル請負命合期限ハ明治三十三年十月二十七日ヨリ翌三十三年三月迄ニシテ林圯埔臺中間ノ樟腦運賃每百斤金三圓ヲ支給シ義務履行ノ擔保トシテ金額七百五十圓ヲ豫納セシメ運搬通路繼立場保管法等ハ該請負人ノ申請ニ依リ明治三十二年十一月二十日林圯埔臺中間通路ハ樹仔脚迄ハ牛車樹仔脚ヨリ臺中樟腦局マテハ輕便鐵路ニ依リ其繼立場ハ樹仔脚北斗彰化湖日庄臺中トシ樟腦ノ保管方法ハ一名以上ノ宰領者ヲシテ人夫ノ監督現品ノ保護ヲ爲シ樹仔脚北斗彰化ノ三箇所ニ倉庫ヲ設ケ滯泊ノ際ハ不寢番ヲ附シ保護セシムルコトナレリ

第六章 賣 渡

第一節 樟腦賣渡

樟腦ノ賣渡方法ハ明治三十三年三月二日樟腦專賣施行方調査委員會ノ決議ヲ經テ左ノ如ク決定セラレタリ

- 一 總督府ヨリ賣下クル樟腦ハ之ヲ一人ニ賣下クルコト
- 一 賣下方ハ指名ノ競争入札ニ由ルコト
- 一 專賣制實施以來今日マテ民政部ニ受理セル樟腦賣下願書ノ提出者ハ悉ク之ヲ入札者ニ指名スルコト

一 賣渡スヘキ樟腦ハ甲精製下樟腦乙普通ノ粗製樟腦但中等以上ノ品兩種ニ分チ甲種ハ每百斤ノ價格九十五圓乙種ハ每百斤ノ價格八十五圓ニテ賣下クルコト

一 競争ノ要點ハ買受人ノ賣捌價格トスルコト

以上ノ決定ニ次テ毎年賣渡スヘキ樟腦ノ數量ハ甲種乙種ヲ合セテ三百萬斤乃至五百萬斤ト決定セラレタリ

樟腦ノ市價ハ一昂一低常ナシト雖其間自ラ需用者ノ負擔ニ堪ヘ得ヘキ程度ノ實價ナカル可カラス然レトモ其實價ヲ認識スルハ極メテ困難事ニ屬セシ所ナリトス明治三十年及三十一年頃ノ市價ハ一時ノ營利ニ汲々タル小商人等カ眼前ノ利益ヲ計リタルモノニテ其需給ノ多寡ニ應シ一昇一降極メテ不定ノモノナリキ

然ルニ專賣ノ制度タルヤ殆ント供給ノ全權ヲ握リ價格ヲ左右シ得ヘキモノナルカ故ニ臺灣樟腦專賣ノ聲一タヒ世上ニ流布スルヤ樟腦ノ市價忽ニシテ昂騰シ神戸ノ市價每百斤四十三圓ナリシモノ俄ニ五十圓臺ニ上リ其後漸次昂騰シ明治三十三年三月ニ至リ八十九

圓ノ新値ヲ現ハシ香港モ之ト同様ノ氣配ヲ以テ昂進シ同月ノ市價百斤ニ付八十八九圓倫動漢堡紐育等亦非常ノ好況ニテ同月ノ市價孰レモ百十二封度ニ付百八十志我百五圓八十五錢七厘内外ヲ往來スルニ至レリ是ニ於テ乎專賣樟腦ノ賣渡價格ハ是等市況ヲ參酌シテ甲種九十五圓乙種八十五圓ト決定セラレタリ

入札ニ於テ競争ノ要點ヲ賣渡價格ニ取ラスシテ其買受人ノ賣捌價格ト定メタルハ普通ノ競争入札ト大ニ其趣ヲ異ニスル所ニシテ是專賣制ヲ施行スル上ニ於テ最モ注意ヲ爲シタル所ナリトス抑モ臺灣樟腦ハ世界ニ於テ殆ト自然的獨占權ヲ有スルモノナリ其獨占ノ故ヲ以テ賣捌上遠キ慮ナキトキハ忽チ不虞ノ災害ヲ蒙リ失敗ニ了ルコトナキヲ保スヘカラス何トナレハ其價格高キニ失スルトキハ爲ニ人工樟腦ノ製造ヲ助長シ若ハ樟腦代用品ノ發明ヲ促スニ至ルノミナラス爲ニ需用者ヲ減シ一定ノ收益ヲ得ルコト能ハサルニ至ルヘケレハナリ殊ニ其買受人ヲ一人ト制限セルハ其賣捌價格ニ干涉スルノ必要アルカ爲ナリ是レ專賣制擁護ノ爲ニ正ニ探ルヘキ方法手段ナリトス

世界ニ於ケル一箇年間ノ樟腦需用額ハ五百萬斤乃至六百萬斤ナリトハ斯道ニ精通セル者ノ齊シク唱フル所ニシテ臺灣内地等ノ生産高及市況等ヨリ推算スルモ亦之ト大差ナキモノノ如シ然リ而シテ從前ニ比シ其生産高ヲ緊縮シテ需給ノ均衡ヲ保持スルハ專賣ノ最大要件ナルカ故ニ内地ニ於テ生産スルモノヲ四五萬斤南清其他ノ地方ニ於テ供給スルモノヲ二三十萬斤ト見積ルトキハ殘リノ四百萬斤乃至五百萬斤ハ之ヲ臺灣ノ專賣品ヲ以テ供給シ得ヘキ割合ナルモ尙其間ニ餘裕ヲ存シテ一箇年度ノ專賣品賣渡數ヲ三百萬斤乃至

五百萬斤ト制限セラレタルナリ
 入札及契約 前項ノ決定ニ據リ明治三十三年三月七日左記二十五名ニ樟腦買受入札者タル
 コトヲ指名スル旨通知セリ
 指名入札人名表

願書接受日付	住所	會社名	氏名
明治三十三年三月十日	臺北大稻埕(支)	三井物産合名會社	田村實
同日	同 建昌街		小松楠彌
四月十三日	同 六館街		上村富一
同月三十日	臺北大稻埕六館街(支)	臺灣貿易株式會社	大谷嘉兵衛
五月三日	臺北大稻埕	サミユール、サミユール商會	荒井泰治
同月二十三日	京都市	關西貿易株式會社	稻垣喜多造
六月八日	香港	アルノルド、カルペール商會	ホルフエールリクタンブルケ
同月九日	臺北大稻埕建昌街	公泰洋行	大倉喜八郎
同月十日	臺北大稻埕	ジャードン、マヂソン商會	ブットラール
同月二十日	臺北大稻埕	ライイト商會	シーエッチヂベスト
七月十一日	臺北城内	日本興業株式會社	オーリ

同月十二日	東京市		伯爵吉井幸藏
同月十七日	大阪府		住友吉左衛門
九月二十八日	佛國里昂府		ユルゼス、ダスサン
十月九日	臺北大稻埕	致和行	鄭世南
同月二十一日	同	大和行	陳志誠
十月二十七日	臺中縣貓羅東堡		林允卿
十一月十一日	臺北大稻埕		陳元旦
三十三年一月十九日	神戶市	日本樟腦株式會社	廣瀬滿正
三月一日	臺東市	アリアンパンマン、エンドコンパニー(合名會社)	エッチ、シー、ピコット
同日	臺東市	高田商會	色田周治
未詳	東京市		横山孫一郎
同上	横濱市	オットライメール社	オットライメール
同上	同上		オベチメール

前段ノ通知ト同時ニ樟腦專賣施行方調査會ノ決議ヲ經テ決定セラレタル入札者心得入札及
 契約締結ノ場合ニ於ケル心得樟腦賣渡契約書案及入札書様式ヲ指名人ニ配布シ以テ茲ニ入
 札ノ準備成レリト雖尙入札者ノ便利ヲ計リ且入札會場ノ混雜ヲ避クルカ爲ニ明治三十三年
 三月二十三日樟腦賣渡契約書案及入札方法等ニ對スル質問會ヲ開キ以テ其遺憾ナキヲ期セ

入札ノ舉行ニ就テハ樟腦賣捌豫定價格ノ必要ヲ認メ樟腦專賣施行方調査委員會ノ決議ヲ經テ甲種乙種ノ樟腦賣捌豫定最高價格ヲ左ノ如ク決定セリ

地 名	種 甲					種 乙					運 賃	保 險 料	諸 雜 費	計 拂	減 量	利 益 金
	倫 動	漢 堡	紐 育	香 港	平 均	倫 動	漢 堡	紐 育	香 港	平 均						
甲 乙 平 均	一一二八五二	一一三四五二	一一三九七八	一一五二四五	一一一三八二	一〇七二〇二	一〇七二〇二	一〇八二二八	九六〇九五	一〇四七八二	一〇八〇五七	二九四二	六六四	一〇四四六	二二八五二	三三〇〇
	二九四二	三五九七	三七八四	六六〇	二七四六	二九四二	三五九七	三七八四	六六〇	二七四六	二七四六	六六〇	二八五	九一七〇	二二五八二	三三〇〇
	六六四	七三三	九一七	二八五	六六六	六六四	七三三	九一七	二八五	六六六	六六六	六六六	二八五	九一七〇	二二五八二	三三〇〇
	一〇四四六	一〇三三二	一〇四〇三	五五〇〇	九一七〇	一〇四四六	一〇三三二	一〇四〇三	五五〇〇	九一七〇	九一七〇	六六六	六四四五	六四四五	二二五八二	三三〇〇
	一四〇五二	一四六五二	一五一七八	六四四五	二二五八二	一四六五二	一四〇五二	一五一七八	六四四五	二二五八二	二二五八二	六四四五	八五〇	八五〇	二二五八二	三三〇〇
	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇

樟腦賣捌入札ハ明治三十三年三月二十四日午前十時總督府内ニ於テ開カレタリ其立會參列

員ハ

- | | |
|----------------|-----------|
| 民政長官 | 後 藤 新 平 |
| 樟腦專賣施行方調査委員事務官 | 大 島 久 滿 次 |
| 同 | 祝 辰 巳 |
| 同 | 中 村 是 公 |
| 同 | 松 岡 辨 |
| 同 | 柳 本 通 義 |
| 同 | 技 師 |
| 同 | 有 田 正 盛 |

其他屬書記等十餘名ニシテ資格審査ヲ受ケテ入場シタル入札者ハ

- | | |
|---------------------|-----------|
| サミユール、サミユール商會臺北支店主任 | 荒 井 泰 治 |
| 三井物産合名會社代理人 | 田 村 實 |
| | 横 山 孫 一 郎 |

ノ三名ナリ(入札被指名者二十五名ノ内他ノ二十二名ハ孰レモ棄權シタルナリ)シカ其入札ノ結果賣捌價格ノ對照左表ノ如シ

賣 捌 地 名	人 名		種 別	賣 捌 價 格
	甲 種	乙 種		
横 山 孫 一 郎	甲 種	一〇四二五〇	乙 種	九五九五〇
	乙 種	一〇四二五〇	甲 種	九五九五〇
荒 井 泰 治	甲 種	一〇七八四三	乙 種	九七七二二
	乙 種	一〇七八四三	甲 種	九七七二二
田 村 實	甲 種	一〇九三九〇	乙 種	一〇四四九〇
	乙 種	一〇九三九〇	甲 種	一〇四四九〇

紐育同	香港同	平均價格	甲乙平均
105750	101900	100088	99669
97450	91850	95200	
107845	102378	106477	101417
99702	94333	98357	
110720	103190	108198	105474
106870	95470	102750	

前項入札ノ結果ニ付審査ヲ遂ケタルニ就レモ豫定賣捌最高價格ノ範圍内ニシテ有效ノ入札書タルコトヲ認定シ其最低額入札者横山孫一郎ヲ以テ落札者ト定メントセシニ同人ハ入札書見積ニ違算ノ廉アルコトヲ發見シタル旨ニ據リ該入札取消ノ申請ヲ爲セリ依テ審査ノ末其取消申請ヲ承認シテ第二ノ最低額入札者荒井泰治ヲ落札者タルコトニ決シ其旨ヲ宣告シテ契約締結ノ手續ヲ了シ茲ニ閉會ヲ告ケタリサミユール、サミユール商會臺北支店主任荒井泰治ノ入札書内譯左ノ如シ

地名	種甲				賣捌價格	運費	保險料	諸雜費	計	減量	利益金
	平	香	紐	漢							
倫敦					107845	4508	1375	3215	9198		3645
漢堡					107845	4508	1375	3215	9198		3645
紐育					107845	4508	1375	3215	9198		3645
香港					102378	778	550	2587	3915		3643
平均					106877	3576	1169	3133	7877		3600

地名	種乙				賣捌價格	運費	保險料	諸雜費	計	減量	利益金
	平	香	紐	漢							
倫敦					99702	4508	1250	3110	8868		3284
漢堡					99702	4508	1250	3110	8868		3284
紐育					99702	4508	1250	3110	8868		3284
香港					94333	778	500	2395	8668		3284
平均					102757	3576	1063	2931	7569		3238

又其賣渡契約ハ滿三箇年ヲ期限トシ總督府ニ於テ尙之ヲ繼續セントスルトキハ少クモ本契約終了六箇月前更ニ契約ヲ協定スルモノニシテ賣渡數量ハ一箇年甲乙二種合セテ約三百萬斤乃至五百萬斤トシ明治三十二年度ニ限リ百萬斤トセリ其價格ハ甲種百斤九十五圓乙種百斤八十五圓ニシテ總督府若シ之ヲ變更スル必要ヲ認メタルトキハ三十日前ニ買受人ニ通知シテ之ヲ變更スルノ權利ヲ有シ且帝國官廳用及帝國内ノ工業用トシテハ買受人ニ賣渡スト同一以上ノ價格ヲ以テ本契約ノ買受人以外ノ者ニ樟腦工業用ハ一箇年度五十萬斤以内ヲ賣渡スコトヲ得ト雖賣渡豫定數量ノ最少額ニ異動ヲ生スルコトナキヲ期セリ買受代金ノ納入ハ毎年四月十日、十月十日ノ二期トシ若シ之ヲ滯リタルトキハ當日ヨリ年七朱ノ遲滯利子ノ支拂ヲ要スルモノニシテ買受人ハ契約ノ期間代金納入ノ擔保トシテ總督府ノ指定スル國債證券額面百八十萬圓ヲ供出シ別ニ違約賠償金擔保トシテ現金又ハ有價證券ヲ以テ金額十萬圓ヲ供出スルノ義務ヲ有スルモノトセリ

第二節 樟腦油賣渡

賣渡方法ノ決定 樟腦油賣渡方法ハ明治三十二年七月二十二日樟腦專賣施行方調査委員會ノ第一回ニ於テ樟腦油ハ各樟腦局ニ於テ賣渡シ定價賣渡ノ法ニ據リ隨意契約ヲ爲スノ外總テ樟腦ノ賣渡方法ト同一タルコト及其價格ハ次會ノ決議ニ待ツコトニ議定シ次テ同月二十七日其第二回ニ於テ樟腦油賣買契約ノ期限ハ會計年度ニ據リ契約期限滿了ノ際其契約ヲ繼續スルト否トハ少クモ契約期限滿了一箇月前ニ之ヲ決定スルコトトセリ又其買受人ハ二人ト定メ各其再製場ノ規模ニ應シ總賣渡高ヲ適當ニ分割シテ賣渡シ買受人受持樟腦局ノ決定ハ各自ノ協商ニ任シ荷造ハ買受人ニ於テ處理シ樟腦局ニ於テハ其容器ヲ下付シ荷造ヲ監督シ官定ノ記標ヲ附スルコトニ議定シタルニ依リ孰レモ之ヲ決行シタリ

樟腦油買受人ニ對スル數量分配ノ調査 樟腦油買受人ヲ二人ト豫定シ之ニ對スル賣渡數量ノ分配ヲ定ムルニ當リテハ先ツ參考トシテ明治三十二年七月二十一日樟腦油ノ賣買營業者小松楠彌及臺灣貿易株式會社ヲ招集シテ樟腦油ノ再製工場ニ於ケル簽數ノ調査ヲ求メタルニ當時内地ノ各再製工場ニ現存セル總簽數ハ百八十五ニシテ内百五十二ハ小松楠彌ヨリ三十三ハ臺灣貿易株式會社ヨリ供給ヲ仰クモノニシテ現在使用スル所ハ百二十七(小松)三十三(會社)ノ原料供給ニ待ツモノナルコトヲ答申セリ依テ此答申ト總督府調査ノ結果トニ徵スレハ臺灣樟腦油ヲ原料ニ供シテ製造スル内地再製業者ハ孰レモ此兩者ヨリ原料ノ供給ヲ仰キ居ルモノナルコト明ナルヲ以テ此兩者ヲ買受人ト假定シ即チ三十二年度ニ於テ賣渡スヘキ樟腦油豫定數量百五萬九千九百八十二斤樟腦生產高ニ對スル五割強ヲ標準トシタルモノヲ

賣渡スコトニ内定セリ而シテ之カ分配量ヲ按分スルニ現存簽數ニ對スルトキハ小松ニ八十七萬九百〇四斤會社ニ十八萬九千七百七十八斤現ニ原料ヲ供給セル使用簽數ニ對スルトキハ小松ニ八十四萬二千四百六十六斤會社ニ二十一萬七千九百三十六斤ヲ賣渡スヘキ數量ヲ算出セリ又簽ニ對スル平均消費高ニ依リ調査スルトキハ毎月ノ供給量ハ小松ヨリ三十六萬二千二百八十斤會社ヨリ十二萬斤ナルヲ以テ即チ三十二年八月以降三十三年三月ニ至ル計八箇月間ノ消費高ヲ推算スルトキハ小松ヨリ二百八十九萬八千二百四十斤會社ヨリ九十六萬斤供給ヲ仰クヘキ計算トナレリ今之ニ對シ賣下クヘキ豫定數量ヲ按分スルトキハ小松ニ七十九萬六千四百二十斤會社ニ二十六萬三千七百四十二斤ヲ分配スヘキ計算ナリ尙三十二年一月以降七月迄兩者カ取扱タル樟腦油數量孰レモ買受指名者ノ申告ニ由ルハ小松分百七十五萬五千斤會社分百一十一萬二千四百斤ナルヲ以テ今此割合ニ據リ三十二年八月ヨリ三十三年三月ニ至ル八箇月間ノ取扱高ヲ計算スルトキハ小松分二百萬五千七百四十四斤會社分二百二十七萬三千三百四十四斤餘トナレリ依テ又之ニ對シ豫定數量ヲ按分スルトキハ小松ニ六十四萬八千七百六十四斤會社ニ四十一萬二千二百一十一斤ヲ賣渡スヘキ分配トナレリ依テ之ヲ審査スルニ上記ノ消費高及三十二年一月ヨリ七月迄兩者カ取扱タル數量ハ誇大ニ失シ全島樟腦油ノ產出高ニ比較スルトキハ容易ニ信ヲ置キ難キモノアリト雖其現存簽數現使用簽數ハ稍々實際ニ近キモノナルカ故ニ今其賣渡數量ノ分配ヲ定ムルニ當リテハ現在使用スル所ノ簽數ニ據ルヲ以テ適當ナリトセリ然レトモ此比例ヲ以テセハ二ト八トノ割合ニシテ即チ二分ヲ買受クル者ハ營業上困難ノ事情アルヲ免レス故ニ之ヲ斟酌シ簽ニ對スル平

均消費高ヲ參考シテ左記ノ分配數量ヲ穩當ナリト認メタリ

七十九萬六千二百四十斤

小 松 楠 彌

二十六萬三千七百四十二斤

臺灣貿易株式會社

買受人指名及契約ノ締結 明治三十二年八月四日小松楠彌臺灣貿易株式會社ノ兩者ヲ樟腦油買受ニ指名スルコトヲ内定シ其賣下數量分配ノ理由及契約條件等ノ要旨ヲ達セリ然ルニ數量ノ分配ヲ爭ヒ兩者ノ間ニ交渉ヲ要シタルノ結果再製業者窪田平吉ニ對シテハ從來小松ヨリ供給シタル原料ハ自今會社ヨリ供給スヘキ條件ヲ附シテ政府ヨリ賣渡スヘキ總數量ノ六分ヲ小松ニ四分ヲ會社ニ買受クルコトトシ圓滿ナル局ヲ結ヒタリト雖各樟腦局ヲ分チテ受持局ヲ定メ現品引渡ヲ受クヘシトノ條件ハ事創始ニ係ルヲ以テ最初ノ一二箇月間ハ兩者連帶ノ責ヲ負フテ支障ナク各局ノ授受ニ從ヒ其間ニ於テ諸般ノ調査ヲ遂ケ以テ之ヲ決行セシコトヲ双方ヨリ申出タリ依テ之ニ承認ヲ與ヘテ契約書案ヲ示シ小松楠彌ハ同年九月二十日臺灣貿易株式會社ハ同月二十二日就レモ契約ヲ結ヒタリ其要領左ノ如シ

契約ハ三十二年九月ヨリ翌年三月迄ヲ期限トシ尙之ヲ繼續スルト否トハ政府ノ決定ニ待ツヘキモノニシテ此期間賣渡スヘキ數量ノ標準ハ所定總額ノ十分ノ六ヲ小松ニ十分ノ四ヲ會社ニ購ハシムルコトトシ買受人ハ其賣渡通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ代金ヲ臺北本金庫ニ完納シ十四日以内ニ樟腦局ヨリ政府所定ノ容器ヲ以テ現品ヲ引取ルモノトス此場合ニハ樟腦局長ノ指定セル場所ニ於テ監督ヲ受ケ自費荷造ヲ爲スモノニシテ又其月分ノ豫定樟腦油賣渡見積代金相當ノ國債證券又ハ指定ノ有價證券ヲ代金擔保トシテ供出

スルトキハ其翌月七日迄代金納入ヲ猶豫スルモノナリ買受人ニシテ樟腦油ヲ他ノ工場ニ供給若ハ轉賣セントスルトキハ政府ノ特許ヲ受クヘキモノニシテ其再製樟腦ヲ賣ラントスルトキハ買受人ハ專賣規則ノ施行ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ賣買價格ヲ定メサルヘカラス若シ之ニ違フコトアルトキハ政府ヨリ其價格ノ變更ヲ命スルコトアリ又臺北及指定ノ場所ニ本支店代理店出張所ヲ設置スルノ義務ヲ負ヒ總テ政府ノ監督ヲ受クルモノニシテ契約義務履行ノ擔保トシテハ現金又ハ前三箇月ノ平均相場ニ依ル國債證券有價證券(小松額面金一萬五千圓以上)會社ハ同一萬圓以上ヲ政府ニ供出シ此場合ニ供出ノ證券カ記名ナリシトキハ委任狀ヲ添付スルモノトセリ而シテ此契約ニ背クトキハ代理人使用人等孰レノ取扱ニ出ツルヲ問ハス違約金ヲ徵シ尙認定ニ依テハ解約ヲ命スルコトアリ此解約ノ場合ニ於テハ擔保納金ヲ沒收スルモノトシ若シ買受人ニシテ其違約金ノ納入ヲ指定期日ニ滞リタルトキハ擔保納金ヨリ控除シ更ニ擔保納金ヲ填補セシムルモノトス

樟腦油賣渡價格 樟腦油賣渡價格ノ標準ハ明治三十二年七月二十七日樟腦專賣施行方調査委員會ニ於テ樟腦油ノ原價交通ノ便否神戸ニ於ケル時價ヲ參酌シ樟腦油百斤ニ對スル神戸賣渡價格ヲ各樟腦局ニ別チテ定ムルコトニ議定セルヲ以テ臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行細則第五條ニ基キ明治三十二年八月四日告示セラレタリ然ルニ歐米ニ於ケル樟腦ノ市況ハ漸次上騰ノ趨勢ナルヲ以テ價格引上ノ必要ヲ認メ同年十一月二十日更ニ改定セラレタリ即チ新舊ノ價格對照左表ノ如シ

局名	新價格	舊價格
臺北樟腦局	三〇五〇〇	二五八〇〇
新竹樟腦局	二九〇〇〇	二四五〇〇
苗栗樟腦局	二八〇〇〇	二三六〇〇
臺中樟腦局	二六〇〇〇	二二一〇〇
林圯埔樟腦局	二四〇〇〇	二〇〇〇〇
羅東樟腦局	二九五〇〇	二四八〇〇

賣渡豫定數量 樟腦油賣渡契約ハ如上既ニ締結セラレタルニ依リ三十二年十月九日左表ノ如ク契約期間ニ於テ賣渡スヘキ豫定數量月別額ヲ達シ尋テ現品ノ引渡ヲ行フニ當リテハ其手續ヲ一定スルノ必要ニ依リ三十二年十月十日特ニ之ヲ民政部及各樟腦局ニ内訓セラレ同月十三日ヨリ賣渡ヲ開始シタリ

賣渡豫定數量月別額

買受人	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
小松楠彌	九,九七〇	一三,七九八	一三,七九八	九,九七〇	九,九七〇	九,九七〇	六五,五〇六
臺灣貿易株式會社	六,六四六	九,一九八	九,一九八	六,六四六	六,六四六	六,六四六	四三,三六〇
計	一六,六一七	二三,九九六	二三,九九六	一六,六一七	一六,六一七	一六,六一七	一〇八,八六六

樟腦油賣渡數量及金額 明治三十二年十月ヨリ同三十三年三月末日迄ニ引渡通知書ニヨリ各樟腦局ニ於テ樟腦油ノ引渡ヲ了シ全ク買受人(小松楠彌)ニ賣渡濟トナリタル數量金額局別表左ノ如シ

局名	十月		十一月		十二月		一月		二月		三月		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
臺北樟腦局	二四,三六〇	六,二八四	三三,四八〇	八,三七九	四六,九九〇	一四,三二八	六,九八八	二二,三二六	七,三三二	二〇,八八〇	六,〇五五	二〇,一五五	五八,八〇二
新竹樟腦局	四七,八五〇	一七,三三三	二九,八七〇	八,三七九	四〇,九九〇	一四,三二八	六,九八八	二二,三二六	七,三三二	二〇,八八〇	六,〇五五	一七,九八〇	四八,六四四
苗栗樟腦局	九三,九九〇	三二,七四三	六〇,九九〇	二〇,二二二	九〇,九九〇	三〇,三三三	一〇,一〇一	一四,一四一	四,七四七	七,〇七六	二,二二二	一,九七二	四八,三七八
臺中樟腦局			八八,一〇〇	二九,八七〇	三八,八六〇	一〇,一九七	五〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	四,四八六			九,八六〇	八,二二二
林圯埔樟腦局					三三,一〇〇	五,五八〇						二,四九四	七,三五七
羅東樟腦局	一六六,一七〇	五二,六九〇	二二,一〇〇	七,三三三	二三四,九〇〇	六五,七八九	一九〇,五三〇	五五,五七一	二五〇	一六六,一七〇	四六,八八五	二二,六四五	一〇,九五九
計	一六六,一七〇	五二,六九〇	二二,一〇〇	七,三三三	二三四,九〇〇	六五,七八九	一九〇,五三〇	五五,五七一	二五〇	一六六,一七〇	四六,八八五	二二,六四五	一〇,九五九

第七章 計算

第一節 支出

樟腦專賣事業ノ管理ハ臺灣總督府民政部殖産課ニ於テ總括セラレタルヲ以テ樟腦專賣所費

豫算ノ取扱ハ技師柳本通義ヲ以テ仕拂命令官ニ分任シ明治三十二年四月二十四日ヨリ臺灣樟腦局開設準備トシテ一般經費ノ仕拂事務ヲ開始セリ而シテ其豫算ノ内營林費蕃界諸費ノ一部及撫育費ノ仕拂ハ直接各地方長官ニ委任セラレ即チ臺北臺中ノ二縣並宜蘭廳ニ於ケル仕拂命令官ノ取扱ニ係レリ

臺北新竹苗栗臺中林圯埔羅東ノ各樟腦局開始ニ際シ仕拂事務ハ臺北樟腦局ニ限リ更ニ同局長有田正盛ニ仕拂命令官ヲ分任セラレ其他ノ五局ニハ臨時現金前渡官吏ヲ置キテ三十二年度經費仕拂事務ヲ取扱ヒ次テ開局事務ノ漸ク進ムニ迫テ五局共ニ更ニ現金前渡官吏ヲ命セラレ以テ本年度ニ於ケル經常部支出額百十五萬七千九百圓六十八錢八厘臨時部支出額金六萬三百十五圓七十五錢五厘計百二十一萬八千二百十六圓四十四錢三厘ノ取扱ヲ爲シ仕拂事務ハ無事結了スルコトヲ得タリ

經常部豫算決算 三十二年度樟腦專賣所費豫算決算及其各官廳取扱高左表ノ如シ

豫算決算表

科目	豫算額	仕拂額	殘額
樟腦專賣所	一、六四九、一六四、三三八	一、一五七、九〇〇、六八八	四九一、二六三、六四〇
俸給及諸給	四〇、七九〇、〇〇〇	三六、七五七、二〇七	四、〇三二、七九三
廳費	九、一七三、三七八	七、三三三、七七一	一、八三九、六〇七
修繕費	一一、〇〇〇、〇〇〇	一一、七八四、三三六	二、二一五、六六四

應別決算表

取扱官廳名	豫算額	仕拂額	殘額
管理廳	五九五、七七七、六五六	一八二、三三二、五八九	四一三、四四六、〇六七
臺北樟腦局	四五六、五一七、〇〇〇	四三三、六三六、一一二	二二、八八〇、八七八
新竹樟腦局	一、三四〇、六四三、三五七	八九九、三三三、一一三	四四一、四一〇、四四四
苗栗樟腦局	一一〇、一、五七〇、八五	一一〇、九〇四、〇一七	二、二五六、八三八
臺中樟腦局	一四一、八八四、五六七	一一四、六五〇、一〇五	一二七、二三四、四六二
林圯埔樟腦局	三五、四二八、六二五	三三、二四四、六五七	二、一八三、九六八
羅東樟腦局	五五、七八〇、三八	四六、一六一、四九五	九、六〇六、五四三

種目	豫算額	仕拂額	殘額
倉庫及事務所新營	九,九二〇.六八六	九,九一九〇.七六六	三六.〇
樟腦局事務室並倉庫 用土地買收及機梯替	七,四八七.〇〇〇	七,四八七.〇〇〇	
船舶購買	二,四〇〇.〇〇〇	二,四〇〇.〇〇〇	
官舎新營	四,二六六.九六七九	四,二六六.九六七九	
計	六〇,〇二九.三六五	六〇,〇二九.三六五	三六.〇

(備考) 本表中管理廳トハ民政部殖産課ニ於テ樟腦專賣ニ關スル管理事務ヲ總括シ設備ノ爲經費ノ支拂ヲ爲シタルモノニシテ縣及廳ノ支拂ハ委任ニヨリテ蕃界諸費撫養費營林費等ノ取扱ヲ爲セリ

臨時部事業費 三十二年度ニ於テ新營事業ノ必要ヲ生シ更ニ臨時部事業費ノ配付ヲ仰キ經費ノ受拂ヲ爲シタルハ左ノ如シ

種目	豫算額	仕拂額	殘額
臺北縣	一九,五四五.〇〇〇	一九,五一九.八六一	二五,一三九
臺中縣	六,一〇〇.〇〇〇	五,六四〇.五八六	四六一.四一四
宜蘭廳	一,九〇〇.〇〇〇	一,八九九.九四三	一〇〇.〇五七
計	一,六四九,一六四.三二八	一,五七九,〇〇〇.六八八	四九一,二六三.六四〇

粗製樟腦及代價出納 三十二年度ニ於テ取扱タル粗製樟腦ノ總數量及價格受拂左表ノ如シ

粗製樟腦出納表

品名	受		拂		殘	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
粗製樟腦	一,八三五.七九一八	五〇,六八八.五五九	一,〇六〇.九二二七	二九,五七六.四八七	七七四.八六〇一	二二,一〇四.〇七三

(1) 受高區分

局別	試製高		收納高		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
臺北樟腦局	一,三三四.四五〇	三八四,二七四.八〇	六,七七二.三	一八一,三八八.二五六	七,一一六.八〇〇	二,一九八,一五七.三六
新竹樟腦局	三五二.〇	四九,二八〇	一,七一一.〇〇〇	四七,〇七二.五二	一,三五九.〇〇〇	四七,一五六.五三一
苗栗樟腦局			四,八七八.五〇	一一八,四二九.四六一	四,八七八.五〇	一一八,四二九.四六一
臺中樟腦局			三,〇四五.三〇	七四,八八八.八一五	三,〇四五.三〇	七四,八八八.八一五
林圯埔樟腦局			八四三.〇〇〇	一八,一三三.〇四〇	八四三.〇〇〇	一八,一三三.〇四〇
羅東樟腦局	五,四四二.二五	二八三,六四九.七六			五,四四二.二五	二八三,六四九.七六
計	一,八八二.一九五	六六,八四一.七三六	一,六四七.五七二	四四,〇〇六.八二三	一,八三五.七九一八	五〇,六八八.五五九

(備考) 試製高欄ニハ臺北文山堡試製所新竹上坪試製所羅東叭哩沙試製所ノ試製樟腦ノ數量及價額ヲ計上ス收納高欄ニハ各樟腦局ニ於テ直接收納シタル粗製樟腦ノ數量價額及

臺北局ニ於テ反則ノ爲官沒トナリタル粗製樟腦數量三百八十九斤價百五圓五十二錢四厘新竹局ニ於テ樟腦油ノ貯藏中自然結晶シテ樟腦ニ變生シタル數量七百八十四斤價百九十六圓七十九錢八厘ヲ包含ス

(ロ) 拂高區分

局名	甲種原料		乙種原料		貯藏減		遞送減		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
臺北樟腦局	六〇三、九六八	一六七、七五八	一五二、四〇〇	七〇、〇七〇	—	—	—	—	一、〇〇四、〇三八	二七、八八八
新竹樟腦局	—	—	—	—	—	—	—	—	六、一三五〇	一、八四三、三六四
苗栗樟腦局	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、七九八	七、五三三、六七一
臺中樟腦局	—	—	—	—	—	—	—	—	一一、二七四	二、七三三、六九四
林圯埔樟腦局	—	—	—	—	—	—	—	—	二、四七九	八、四二二、六〇〇
羅東樟腦局	—	—	—	—	—	—	—	—	七、二四三	三、八三三、五〇三
計	六〇三、九六八	一六七、七五八	一五二、四〇〇	七〇、〇七〇	—	—	—	—	一、〇〇四、〇三八	二九、五九六

(備考) 甲種原料欄ニハ製造減高八萬六千三百三十四斤、五價二萬三千九百八十圓二十七錢三厘ヲ包含ス

(ハ) 殘高區分

三十三年度末ニ於ケル殘高ニシテ即チ本年度ノ資産ニ屬シ翌三十三年度へ繰越トナルヘキ

粗製樟腦ノ數量價額局別左表ノ如シ

粗製樟腦殘高局別表

局名	數量	價額
臺北樟腦局	六四六、四六九	一七九、四九三
新竹樟腦局	一九二、〇	二六、八八〇
苗栗樟腦局	三二、〇八八	八、一三〇
臺中樟腦局	六六、四五〇	一六、九二九
林圯埔樟腦局	二九、〇三一	六、三四三
羅東樟腦局	六三〇、〇	三〇〇、五一〇
計	七七四、八六〇	二二一、二四四

樟腦油及代價出納 三十二年度ニ於テ取扱タル樟腦油ノ數量及價額受拂左表ノ如シ

樟腦油出納表

品名	受		高		拂		高		殘		高	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
樟腦油	一、三三九、九九七	一、九一七、七六五	一、一三三、九二五	一、五九七、七五四	—	—	二二六、七八〇	三三、四九四	—	—	—	—

(イ) 受高區分

局名	試製副產高		收納高		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
臺北樟腦局	八五九四八〇	二二八九二〇〇	二四四〇六八五	三六、五三、五九五	三三〇、〇六、五	四九、四、五七九五
新竹樟腦局	二二五〇	二二九〇	一九九六四三〇	二八、九四八、二三五	一九九、八五八、〇	二八、九六、一三五
苗栗樟腦局			四八一、七四九〇	六六、四八一、三六二	四八一、七四九〇	六六、四八一、三六二
臺中樟腦局			二六、九八五九〇	三五、〇八一、六〇〇	二六、九八五九〇	三五、〇八一、六七〇
林圯埔樟腦局			四九、七五〇、〇	五、四七二、五〇〇	四九、七五〇、〇	五、四七二、五〇〇
羅東樟腦局	二八、七四〇、五	七、三二二、八九二			二八、七四〇、五	七、三二二、八九二
計	一、一四、九三、五	一、〇一、二七、九三二	一、一三、四五、〇六五	一、七二、五、四七三、六二	一、一三、五九、九七三、〇	一、九二、七、六五、三五四

(備考) 試製副產高欄ハ臺北文山堡試製所新竹上坪試製所羅東叭哩沙試製所ノ三箇所ニ於ケル副生樟腦油ノ數量價額收納高欄ニハ各局收納ノ外臺南縣下ニ於ケル個人所有ノ未納稅樟腦油ヲ林圯埔樟腦局ニ於テ收納シ臺北樟腦局ニ直送シタル數量千六百六十七斤價額百二十八圓三十七錢ヲ含ム但シ新竹樟腦局ニ於テ官沒ニ係ル樟腦油八百斤ハ他物ヲ混和シタルモノニシテ價額ヲ附スル能ハサルカ爲之ヲ計上セス

(ロ) 拂高區分

局別	引渡高		減高		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
臺北樟腦局	二〇一、五五〇	三〇、一八五、八一〇	一六八、八二〇	二、五三二、三〇〇	二二八、三三〇	三二、七一二、一一〇

(備考) 引渡高欄ハ各樟腦局ニ於テ管理廳ノ引渡通知書ニ據リ買受人ニ引渡シタル數量價額減高欄ハ各樟腦局ニ於テ貯藏中揮發滅失シタル數量價額ヲ計上ス但羅東局ノ定價當初ハ百斤二十六圓八十錢、一月後ハ二十三圓八十五錢ナリ拂ハ一月以後ナルヲ以テ一萬五千五百三十五斤ニ對シ百斤ニ付二圓九十五錢ノ差ヲ生ス其差額ハ羅東局引渡高欄ニ計上セリ

(ハ) 殘高區分

三十二年度末ニ於ケル殘高ニシテ即チ資産ニ屬シ三十三年度へ繰越トナルヘキ樟腦油ノ數量價額局別表左ノ如シ

樟腦油殘高局別表

局別	數量	價額
臺北樟腦局	一一一、六二四、五	一六、七四三、六七五

新竹樟腦局	一六,五八三、〇	二,三八六、二六〇
苗栗樟腦局	二一,七三二、〇	二,九九七、六三六
臺中樟腦局	六七,八〇二、〇	八,八一四、二六〇
林圯埔樟腦局	一五,五三〇、〇	一,七〇八、三〇〇
羅東樟腦局	三,五一九、〇	八三九、二八二
計	二二六,七八〇、五	三三,四八九、四一三

第二節 收入

三十二年度ニ於ケル樟腦專賣事業ノ收入事務ハ民政部收入官吏ニ於テ取扱ヒ其金額ハ歲入調定官ノ調定ヲ經タルモノナリ本年度樟腦ニ對スル收入ノ豫算及決算左表ノ如シ

豫算及收入額表

科 目	豫 算 額	調 定 額	收 入 額
樟腦收入	一,九六三,七二八、〇〇〇	九,七七八,七〇九、〇	九,七七八,七〇九、〇

各種樟腦及代金受拂 三十二年度間ニ於テ賣渡トナリタル各種樟腦ノ數量及代金受拂左表ノ如シ

各種樟腦及代金受拂表

種 別	受		高		拂		高		殘		高	
	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價
甲種樟腦	五,七六三、三五	四九,一七五、一八二、五	三〇一、六八	二,八六二、〇四六、〇〇	二二六、三五五	二,〇五五、五五七、二二五						
乙種樟腦	四,〇〇〇、七〇〇	三三,〇〇〇、〇〇〇	四〇〇〇、七〇	三,四〇〇、五九五、〇〇								
計	九,七六三、三五	八三,一八二、三三、五	七〇一、三六八	六,二六二、六四一、〇〇	二二六、三五五	二,〇五五、五五七、二二五						

(備考) 受高欄ハ生産受ノ數量及價額拂高欄ハ買受人ニ賣渡タル數量價額他官衙へ保管轉換及贈與ノ爲拂出シタル甲種千二百六十八斤價千二百四圓六十錢、乙種七十斤價五十九圓五十錢ヲ包含ス殘高欄ハ翌年度へ繰越トナルヘキ數量及價額ヲ計上ス
樟腦油及代金受拂 三十二年度ニ於テ賣渡トナリタル樟腦油ノ數量及代金受拂左表ノ如シ

局 別	受		高		賣		高		貯		高		減		殘		高	
	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價
臺北樟腦局	三三〇、〇一六、五	九七、三九八、五二〇	二〇一、五五〇	五,八八〇、二七〇	一六,八四二、〇	五、三六八、一〇	一一一、六二四、五	三三、四六〇、四四〇										
新竹樟腦局	一九九、八五八、〇	五三、七五七、七六〇	一七九、八〇〇	四,八六四、四六〇	三、四七五、〇	一、〇二五、一二五	一六、五八三、〇	四、〇五六、〇三五										
苗栗樟腦局	四八、七四九、〇	一六、九五二、三八四	四五八、二〇〇	一四、八二一、六〇	一、八二七、〇	五、一五六、〇	二二、七三三、〇	四、九五九、六六四										
臺中樟腦局	二六九、八五九、〇	六七、一六二、三七八	一九七、二〇〇	四、八三七、九六〇	四、八五七、〇	一、二八七、一〇五	六七、八〇二、〇	一、七四九、三三三										
林圯埔樟腦局	四九、七五〇、〇	一、〇四五、四八〇	三四、二二〇	八、二二八、〇〇														
羅東樟腦局	二八、七四〇、五	八、七三九、八二二	二四、九四〇	七、三三七、三〇〇	二八、一、五	八三〇、四三三	三、五一九、〇	七、三三三、六八九										
計	一,三五九,九七三、〇	三六四,四五八、五〇四	一,〇九五,九一〇	二六,一八七、七〇九、〇	二七,二八二、五	八,〇四三、六四三	二二六,七八〇、五	六三,五三三、七七二										

(備考) 本表ハ總テ賣渡價格ヲ附ス

第三節 樟腦專賣事業ノ損益

明治三十二年度ニ於ケル臺灣樟腦ノ專賣ハ創始ノ事業ニ係レリト雖其損益計算ヲ見ルニ本年度ニ於テ收入ニ屬スル總金額ハ二百四萬四千七十七圓四十四錢六厘支出ニ屬スル總金額ハ百二十六萬二千九百六十八圓三十六錢一厘ニシテ差引金七十八萬一千九圓八錢五厘ハ臺灣樟腦專賣事業ニ依テ得タル純益金ナリ今之ヲ本年度經費豫算支出總額金百二十一萬八千二百十六圓四十四錢三厘ニ對スルトキハ六割〇五厘弱ノ利益ニ當レリ其算出ノ基ク所左ノ如シ

收支計算表

收		入		支		出	
甲種樟腦	二八五〇〇〇〇	粗製樟腦買收費	四三九八五〇二七	乙種樟腦	三四〇〇〇〇〇	樟腦油買收費	一七二五五七三六二
樟腦油	二九二八七七〇九〇	樟腦減量價格	四〇七六二七六五	甲種樟腦殘高	二〇五五五四七二五	樟腦油減量價格	三、九八九一五三
甲種樟腦殘高	六五八六三〇八五	試製費	三五七六五七〇七三	粗製樟腦殘高	六三、五三七七一	營林費	二、六七五〇三
樟腦油殘高	六三、五三七七一	諸費	二、〇五五七八一〇	計	二、〇四四〇七七四四六	計	一、一六二、九六八、三六一
計	一、九八、四八四、二七五	計	二、〇四、九一七、六六八				

(備考) 曩ニ本局ニ於テ刊行シタル收支計算ニハ收入金九十一萬七千八百七十七圓支出金百二十一萬八千二百十六圓トアリシモ是レ收入ニ於テ翌年度へ持越シノ各種樟腦殘高及官有財產價格合計金百十二萬六千二百圓三十六錢五厘ヲ算入セス又支出ニ於テ樟腦樟腦油ノ減量價格金四萬四千七百五十一圓九十一錢八厘ヲ算入セサルニ依レリ

第八章 庶務

第一節 職員任免異動(三十二年度末調)

官等		事務官		技師		局員		別異		動	
五等	四七級俸等	五等	四七級俸等	五等	六等	現員	三月末日	現員	三月末日	現員	三月末日
現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員
總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府	總督府
臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北	臺北
新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹	新竹
苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗	苗栗
中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林	中林
東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林	東林
休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職	休職
轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免	轉免
死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡

計	雇員							計	囑託員								
	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月		一〇月	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月	一〇月			
四八	-	-	九	三	一四	七	五	七	-	六	-	-	-	-	-	-	-
二	-	-	-	-	-	-	-	-	四	-	-	-	-	-	-	-	-
一七	-	三	三	二	六	-	二	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八	-	-	-	四	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四	-	-	-	二	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八	-	二	-	四	-	-	二	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
六	-	二	-	-	二	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
七	-	-	-	三	-	-	三	-	三	-	-	-	-	-	-	-	-

給額

三月末日

〇囑託員、雇員、事務備員

備考) ×印ハ兼勤者ナリ

八月	千	年	計	技手				計	八	九	十
				八級	七級	六級	五級				
-	-	八	×	×	-	-	-	×	-	-	-
-	-	八	二	六	三	三	二	-	一〇	五	六
-	-	八	八	×	-	-	-	×	七	-	-
-	-	八	七	七	四	-	-	六	三	-	五
-	-	八	二	〇	三	-	-	二	七	-	二
-	-	八	八	×	-	-	-	×	八	-	三
-	-	八	二	八	-	-	-	二	八	-	二
-	-	八	六	-	-	-	-	五	-	二	-
-	-	八	六	-	-	-	-	六	-	-	二
-	-	八	三	-	-	-	-	×	二	-	-
-	-	八	二	-	-	-	-	二	-	-	-
-	-	八	二	-	-	-	-	二	-	-	-

書記定員七十七人 (内臺北三二新竹一苗栗九臺中一二林圯埔六羅東七人)

事務備員日一回以下	二二	六	一	二	二	二	二	五	一
合計	六六	六	一八	一〇	六	八	六	二二	一〇

判任官以下現在員ニシテ本年度内進級若ハ増給シタルモノ左ノ如シ

- 書記ノ進級 二十二名
- 書記ニ進級 嘱託員十二人 雇員十人
- 嘱託員ノ増給 一人
- 雇員ノ増給 十八人

守衛以下現在

局名	職名		守衛	仲	仕給	仕小	使	計
	別	内						
臺北樟腦局	土	内						五人
新竹樟腦局	土	内						三人
苗栗樟腦局	土	内						三人
臺中樟腦局	土	内						三人
林圯埔樟腦局	土	内						三人
羅東樟腦局	土	内						三人
計	土	内						二九

(備考) 本表區別欄ニ内トアルハ内地人ニシテ土トアルハ本島人ナリ

第二節 文書取扱件數

計	發送		收受		計
	土	内	土	内	
二六八八			一七五九	八九六	二六八八
一六八九			七九三	一〇七九	一六八九
一四五四			三七五	一三〇六	一四五四
三三〇〇			一九九四	五三〇六	三三〇〇
八八二			三二八	五六四	八八二
六六五			二九一	三七四	六六五
一〇、八五八			五、九七八	四、八八〇	一〇、八五八

第三節 公文諸法規ノ制定改廢官規

年月日	令	件名	改廢
三三、六、一〇	令勅 二四六	臺灣樟腦局官制	
三三、六、一〇	令勅 二四七	臺灣樟腦局職員官等俸給令	
三三、六、一〇	令勅 二四八	臺灣樟腦局事務官特別任用令	
三三、六、二三	令府 五	臺灣樟腦局名稱位置管轄區域	
三三、六、二三	令訓 一八七	臺灣樟腦局長職務規程	

三三、七、八	令府	五九	臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行細則	
三三、六、三	示告	六九	樟腦及樟腦油賠償金額	
三三、六、三	示告	五〇	樟腦及樟腦油輸出港灣指定	
三三、六、三	令府	四九	臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行期日	
三三、六、三	令律	一五	臺灣樟腦及樟腦油專賣規則	
三三、三、一	殖民	三五二ノ二	臺北縣下隘勇服裝制定(民政長官通達)	
三三、三、一	戊總	一六	委任權限内ニテ任免シタル囑託員、雇員ノ懲戒處分各局長へ委任(總書官)	
三三、二、一	訓内	五三	臺北樟腦試驗場使役職工(一圓七十錢迄)ノ命免及其報告方(總督)	
三三、一、〇、六	殖民	一五〇七	樟腦局報告例制定マテノ問職員任免、異動及管内出張等報告樣式規定(民政長官代理通達)	
三三、一、〇、〇	令訓	二五三	樟腦局員管内月額旅費規則	三十三年三月七日訓令第四七號ヲ以テ本令中改正
三三、一、〇、〇	殖民	一〇二八	樟腦局報告例制定マテノ問報告事項規定(民政長官)	
三三、一、〇、五	殖	一〇三八	辦務兼務員ヲシテ山元製造場搬出樟腦及樟腦油ノ下検査並蕃地内外取締ノ爲巡視方(同上)	
三三、七、二、四	殖	九六一	樟腦局處務細則標準(課長通達)	
三三、七、二、四	令府	七三	臺灣樟腦局ハ民事訴訟ニ付國ヲ代表ス	
三三、六、二、五	令訓	一八八	臺灣樟腦局書記定員	

三三、七、二、九	令訓	二三四	官沒又ハ稅關ノ收納ニ係ル樟腦及樟腦油ノ處分方	十月二十日告示第九八號ヲ以テ改正
三三、八、四	示告	七七	樟腦油賣渡價格	
三三、九、七	殖民	一九三	專賣規則施行細則ニ依ル製造人ヨリ製造見込高届出ニ對シ申報方(民政長官通達)	
三三、九、七			淡水稅關ニ於ケル專賣規則施行以前ノ製造品輸出ニ付取締手續決議	
三三、一〇、九	殖民	一三五〇	樟腦油容器ニ附スル局別目標(民政長官通達)	
三三、一〇、一〇	訓内	五〇	樟腦油賣渡ニ關スル心得(總督)	
三三、一〇、一六	令訓	二九三	民政部殖產課臺灣樟腦局間並各樟腦局間物品保管轉換命令書樣式	
三三、一〇、三	令勅	二九五	樟腦運搬手續	十二月二十六日訓令第三五二號ヲ以テ目標難形改正
三三、一〇、一六	令勅	四五五	專賣規則違反申告者賞與ニ關スル件	
三三、一〇、三	示告	二五	樟腦ノ賣渡及其賣渡場所	
三三、六、二、〇	令勅	二九一	臺灣官有森林原野及產物特別處分令(二十九年勅令三二號)中隨意契約ヲ以テ樟腦製造原料等賣渡ノ件追加	
三三、六、三	令律	一六	臺灣樟腦及樟腦油製造規則	
三三、六、三	令府	四九	臺灣樟腦及樟腦油製造規則施行期日	
三三、七、八	令府	五七	臺灣樟腦及樟腦油製造規則施行細則	
三三、一〇、一	殖民	一三七	製造規則施行細則ニ依ル製造人ヨリ届出ノ製造納付高及月末現在高毎月申報方(民政長官依命通達)	
三三、一〇、一	令訓	三九二	樟腦及樟腦油製造特許並樟腦及樟腦油產額登記帳簿樣式	

三三、七、七	令訓	三三〇	歲入調定額證明心得(三十二年六月)中凡例中へ樟腦及樟腦油賣下代追加	三三、二、三	民	同上簿冊中他官廳主管事項ハ民政部ヨリ通牒ノ件(民政長官)
三三、七、七	令訓	三三一	出納官吏命免手續(三十二年三月)中「樟腦局長」追加	一五八九	民	
三三、七、七	令訓	三三二	出納官吏検査員其他任命方(三十一年七月)中「樟腦局長」追加			
三三、七、七	令訓	三三三	臺灣歲入取扱規則(三十一年二月)中「樟腦局」追加			
三三、七、七	令訓	三三四	樟腦局ニ於ケル歲入金調定事務及收納ノ監督ヲ分掌ノ件			
三三、七、七	民	三五五	歲入金毎月調定額報告書提出期日(民政長官依命通達)			
會 計						

1/37

明治三十六年十月三十日印刷
 明治三十六年十月三十日發行

臺灣總督府專賣局

印刷人 臺北新起橫街二丁目百二十番戶
 酒井邦之輔

印刷所 臺北城內西門街四十七番戶
 株式會社臺灣日日新報社

1421
122

終